

令和6年度第5回袖ヶ浦市社会教育委員会議

1 開催日時 令和7年1月31日 午後2時55分開会

2 開催場所 平岡交流センター2階会議室

3 出席委員

委員	平川 真	委員	田中 雪夫
委員	木村 育子	委員	佐久間 正博
委員	木曾野 真紀	委員	小泉 康
委員	佐々木 眞由美	委員	西田 隆司
委員	岡田 康	委員	松井 恭子
委員	畠山 真一		

4 欠席委員

委員	二宮 義文	委員	稲垣 昭彦
委員	在原 潤	委員	中山 正紀

5 出席職員

教育長	鴫田 道雄	生涯学習課長	重田 克己
スポーツ振興課長	大久保 治彦	市民会館長	島田 宏之
郷土博物館長	西原 崇浩	中央図書館長	塩谷 利之
生涯学習課 社会教育班長	君塚 和枝	生涯学習課 主任主事	川俣 雄平

6 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

7 議題

(1) 市民三学大学講座の在り方について

8 報告・連絡

(1) 令和6年袖ヶ浦市生涯学習特別奨励賞及び生涯学習奨励賞について

(2) 令和7年度社会教育委員の年間活動計画(案)について

(3) 令和6年度君津地方社会教育推進大会の結果報告について

(4) 各種事業の実施結果について

・令和7年袖ヶ浦市二十歳を祝う会

・2025袖ヶ浦市新春マラソン大会

(5) 今後の事業の実施予定について

- ・第29回ふれあいフェスティバル
- ・ウォーキングフェスタ2025 in 袖ヶ浦
- ・図書館からのお知らせ
- ・郷土博物館からのお知らせ

9 その他

10 議事

議題（1）市民三学大学講座の在り方について

【資料1 ページから37 ページを説明】 事務局君塚

田中委員長 : 質疑等あるか。

小泉委員 : シニアの活動が少なくなっている袖ヶ浦の社会教育が、形の上で衰退していくことを危惧している。社会教育のバックボーンである三学大学を年2回の講演だけではなく、一步進めた形で何かしなくてはと思ひ提案した。

できるだけ行政に手間をかけないで欲しいが、色々な部課に協力を求めて袖ヶ浦に対する理解を深めてやれば良いかと思う。皆さんの意見にあった講座をしっかりとやれば良いとか、多くの人が集まる工夫をすれば良いなどあるが、具体的にどう対応するのか。口で言うのは簡単だがどれも難しい事ばかりと感じた。

青少年は学校教育があり、人も予算も充実しているので、教育委員に任せて、社会教育委員は、むしろ成年、高齢者の教育を目指していかなくてはと考えている。高齢者寄りの考えになってしまうが、何かしなくては思っている。

田中委員長 : 皆さんから一言ずつご意見をお願いしたい。

平川委員 : 案に関しては卒業という言葉が生涯学習の目的から言うと違和感がある。むしろ、それをきっかけとして広めていく事について考えさせられた。他市関係者より三学大学の高評価意見をもらう事がある。三学大学の充実、より参加者が増える手立てを考えること、青少年健全育成推進大会、生涯学習推進大会で三学大学の意義をパンフレットに入れて意識させていく。またサークル活動の機会を使って、無理のない範囲で進めてもらえばと思う。

松井委員 : 学ぶことは大事である。学ぶだけでなく、人が喜びを感じるのは、誰かの役に立っていることにやりがい、生きがいを感じるものではないか。シニアに特化するのではなく、全世代型の学びの場を作ることが三学の精神に則っていくと思う。

市役所南庁舎の市民フロアも完成し、市民の活動を支援するスペースと聞いている。うまく利用して生涯学習課でも何かを考

えられていると思うが、全世代が交流しながら学べて何か生み出せるような取組が出来れば良いと思う

畠山委員：個人的にスポーツ関係に目が行く。小泉委員の試案にあるウォーキングは身体の基本である。年を取ると骨が弱くなり、関節が痛み、老化が進んでいくケースがある。正しい歩き方は大事、ウォーキングを中心とした活動を何かできないか進めていければと思う。

木村委員：小泉委員の考えはよくわかるが、三学大学にプラスするというのは気持ちが揺らぐ。三学には特性がある。プラチナコースの狙いは良いと思うが、三学大学の中に作るのは反対である。これからプラチナコース的なものを作って活かしていきたい。今の三学大学はスポーツ、文化、それぞれの分野から例を考えて講師を選定しているので大切にしていきたい。

西田委員：三学については現状成果を挙げてきていると思う。このまま進めて行く形で良いと思う。社会教育について考えると世代間を埋めていく必要があると思う。地域の高齢化と共に消滅していくサークルもある。現状は減る一方で、高齢者にある程度配慮は必要と考える。自身の地域ではボッチャやグランドゴルフ等を行っていて、参加を促すと体を動かすことは健康に良いと皆さん自覚しているので意外に集まる。そこで絶対来ない、ひきこもる人が更に免許返納すると、3～6か月後には施設入所されていく図式が出来ている。極力、引きこもらないよう活動に参加させるようシニアクラブリーダーにはお願いしているが、興味のない人は確実にいる。小泉委員がそういった方にも機会をみつける発想があると思うが、運営者としては現実的には難しいと感じている。

岡田委員：小泉委員の提案は素晴らしいと思う。自身は70才を過ぎているが、ガウランドなど利用して自ら動くことを意識している。あとはどういう働きかけをするのか。各々やれることをしたら良いと思う。

木曾野委員：プラチナコースの対象をシニア向けにしているので、子育て世代としては響かない。普段から公民館に関わっている人は来そうだが、果たして新たな参加者があるのだろうかと思った。来る人は元気でサークル活動してキラキラしている人だと思う。サークル活動は先細りを感じる。自身の子供時代に地元で、30代から40～50代で子育てが落ち着いた方が、時間を繰り合わせて夜間にサークル活動を行っていたイメージある。そういう世代を取り込むことを考えた方が良い。サークルは自主的な活動だと思っているので、プラチナコースのサークルに入りましょうという形だと馴染まない。公民館での講座一覧など広報やHPで詳しく掲載されるとイ

メージし易くなる。参加する人が増えるのではないか。
交流する場としての交流センター、居場所を充実させたい。
そこから交流が始まるような形が良いと思う。

佐久間委員 : 資料に書かれている元吉堀市長からの文書が三学のきっかけだと思うが、昭和50年代の話で、40年が経過して時代は変わっている。当時は講座に参加し、学んで情報を得たかっと思う。今は、ネットニュースやTVで何もしなくても色々な情報が耳に飛び込んでくる。自ら学んで情報を得ようとする感覚は少なくなっている。市の事業として40年前やっていた手法で進めていくのは方向性が間違っていると思う。
プラチナコース(案)は、人数少なくても良いとの事なので、ご自身でサークルを作ったらどうか。
年2回の三学大学を充実していくことが大事だと思う。袖ヶ浦は教育の街であることを前面に押し出して良いと思う。それによって袖ヶ浦で行う三学はすごいという印象とリンクしていくと思う。40年間実績があり、学びを継続しているとなれば説得力もあると思う。

わんぱくクエストで参加者が数々の経験をしたことは、大人になって自分の支えになる。このような事業に、子どもにお金にかけられない市は何もない。子育て世代であるので強く感じる。

佐々木委員 : プラチナコース(案)の20~30名は袖ヶ浦市の規模からすると非常に少ない対象だと思う。カルチャーセンターは興味あるものに参加するが、市民大学の中にある講座に参加して意識を高く持つという器を今から作るとなると三学のあり方からずれると思う。

指針にあるウォーキングも含めた声を出して挨拶することは推奨すべきと思う。そのためにハイキングコースを整備するとか、市民の創意として分け合えれば良い。皆の意識が醸成されて方法を探っていくのが良いと思う。それが三学と関係があるかはわからない。「三学の想い」を市民の目にたくさん触れるようにすれば良いと思う。

田中委員長 : 小泉委員の提案は素晴らしいと思う。自身が諸活動で多忙につき、あまり力にならなく心苦しい状況である。委員の方々の意見を集約していただき、今後につなげて頂ければと思う。

鴫田教育長 : 三学について勉強会があり、新しい提案があり、非常に大事なことと捉えている。時代が変化している中、形だけ守り、立ち上げた時の魂が抜けていることが多くある。いつの時代でも起こり得るが、それに対しては改革、変革、見直しを図っていくべきと思う。時代が変われば、人の興味・関心は変化していくもの。それに合わせて対応していくべきだと思う。

三学も皆さんの意見で変えていくのも良いと思う。大切なことは立ち上げ時の魂だけはきちんと残していきたい。

学校教育とは、すべての子どもに最低限必要な技能、知識を与えていく場と思っている。子ども達にいかに関心・興味を沸かせ、計画的に教育していく事と思う。社会教育は全く違うもの。学校教育を経た上に立つ訳で一人一人の興味関心も、学びたい方向性も違う。そこには主体性、独自性が発揮されなければいけない。

三学大学の言葉の概念に共感する。ここに大学と言う名が入ったために学校教育とオーバーラップしている。精神は三学なのに、大学と付いたため講座生となる。大学とはそういうイメージ。社会教育の分野において主体的に行くべきところ、上から形をはめて講座生とやってしまうと社会教育の範疇でなくなる。社会教育、生涯学習の理念で三学を見直して行くべきだと思う。

子どもも大人も本物に触れることは大事だと思う。本物に触れる機会をいかに子どもや市民に提供できる場を作るか。

演劇やオーケストラ、人の話も本人から聞くことは本で読むのとは全く違う感動がある。三学では、なかなかお会いすることのできない方の話を生で聞けることで心を動かされ、興味・関心を持ったりするものだと思う。6万人の町で著名人を呼んで目の前で息遣いを感じ、話を聞いたことで自分の人生を変えていくことさえある。そういう場所を提供してきた三学大学講座である。形は変えてもいいと思うが、無くしては欲しくないと考えている。

小泉委員：確認したい。三学大学の精神は郷土愛を育てること。「幼壮老」の幼は学校教育、壮は社会に出て学ぶ、老がまさにシニアに該当する。郷土と全世代での学習で、一番なくなるのが老だと思う。それをなんとかしたい。

鵜田教育長：三学大学の初期の目的は時代とともに変えても良いと思う。
佐々木委員：リタイヤした後の世代が彷徨っているという感じを心配しているということか。

小泉委員：定年して、第二の人生と喜んでいたところ、そういうのもなくなっている。

鵜田教育長：世代別で考えると高齢者講座の充実を図れば事足りるかと思う。三学となると全市民を対象として世代問わず主体的に入ってきて欲しい。

田中委員長：今の意見を検討して頂いて、次に繋げていただきたい。

報告・連絡（１）令和6年袖ヶ浦市生涯学習特別奨励賞及び生涯学習奨励賞について
【資料38～42ページを説明】・・・・・・・・・・事務局川俣

- 田中委員長 : 質疑等あるか。
佐々木委員 : 表彰者の所属団体、学校名が統一されていない。併記したらどうか。
事務局川俣 : 団体クラブチームからの推薦、学校からの推薦によって記載の内容が異なってくる。これは推薦元によるものである。
佐々木委員 : 個人の部の表記で同じチームで表彰の対象者も多く、省略する必要はないが、他とのバランスを見ると何かいい表記法はないものか。
事務局川俣 : 市内の団体であれば団体の部で表記するがメンバーが市外在住のケースもある。市外の団体になると他市在住者と混成しているため、市内の子のみ対象として表彰すると個人の部でこのような表記となる。
田中委員長 : 大会当日参加される方はよろしくお願ひしたい。

報告・連絡（２）令和7年度社会教育委員の年間活動計画（案）について
【資料43ページを説明】・・・・・・・・・・事務局君塚

- 田中委員長 : 質疑等あるか。
畠山委員 : 定例会は毎回金曜だが、特別な理由があるのか。
事務局君塚 : 教育委員会の会議が水曜に行われている等の兼ね合いもあり、比較的、金曜がやり易いということで設定している。

報告・連絡（３）令和6年度君津地方社会教育推進大会の結果報告について

- 事務局君塚 : 1月16日に開催され、当日は4市から150名ほど参加された。
児童養護施設長・君津市社会教育委員の講演会があり、地域で子どもを育てる、当たり前を送らせてあげたい考えのもと、子どもや社会に対するメッセージ性の強い講演だった。
佐々木委員 : その児童養護施設を開所当時に見に行く機会があった。戸建ての家で、1軒に6人位が生活しており、それを支援している。同級生などが自然と遊びに来て、児童養護施設に対する偏見的な見方もなく、とても落ち着いた感じであった。その施設長の講話ということで、期待して参加した。
子どもや親のことが良く見えている一方で、ハード面の素敵さよりも、それを上回るソフト面のやさしさもあり、厳しくもあり、冷静さを持ち合わせた方で子どもを思う気持ちがとても熱

い方で、心温まる話を聞かせていただいた。

報告・連絡（４）各種事業の実施結果について

・令和７年袖ヶ浦市二十歳を祝う会

【資料４４～４７ページを説明】・・・島田市民会館長

田中委員長：質疑等あるか。

佐久間委員：長浦・蔵波地区に参加した。仲間との久しぶりの再会を楽しんでいた。午前の参加者がたくさん残っていた。午後はとても落ち着いていて、それぞれの将来に向け頑張る等を話していた。とても温かい雰囲気での式典だった。

佐々木委員：昭和地区に参加した。ホワイエ辺りで話し込んでいる様子がかがえた。式典時間になっても未着席があった。着席時刻の周知が見える化した方が良かったと思った。久しぶりの再会で話したいと思うので、フリースペースなど場所の提供があると良かったと思う。

松井委員：根形地区に参加した。青少年相談員の皆さんが事前準備に携わってくれたことのアナウンスが出来ていなかった。

・２０２５袖ヶ浦市新春マラソン大会

【資料４８ページを説明】・・・大久保スポーツ振興課長

田中委員長：質疑等あるか。

小泉委員：年配の方も割と参加していた。増えてきたと思う。

報告・連絡（５）今後の事業の実施予定について

・第２９回ふれあいフェスティバル【資料４９～５０ページを説明】

事務局君塚：青少年相談員が主催で、実行委員を中心に準備を進めている。１月３１日現在で２２５人６８チームの申込みがある。保護者参加も可能というのが、子どものみ参加のイベントより申込みの反応が良いと感じている。

昨年は２３７人の参加があった。まだ半月あるので、申込人数の少ない学校などに周知を図り、目標の３００人を目指していきたいと考えている。

田中委員長：質疑等あるか。

：（質疑なし）

・ウォーキングフェスタ2025 in袖ヶ浦【資料5 1～5 2ページを説明】

・・・・・・・・大久保スポーツ振興課長

田中委員長 : 質疑等あるか。

木曾野委員 : 以前は市内の色々なコースにしていたと思うが、ここ数年ドイツ村での開催には理由があるのか。

大久保スポーツ振興課長 : 必ず課題となっているのが、駐車場とトイレの問題で、それを解決できる場所がドイツ村であるため、選定している状況である。

今後もドイツ村に確定ではなく、毎年検討していきたい。

小泉委員 : 同じコースでなく、2つか3つくらいのコースを検討して頂きたい。

大久保スポーツ振興課長 : 次回の検討材料としたい。

・図書館からのお知らせ【資料5 3ページを説明】・・・・・・・・塩谷中央図書館長

田中委員長 : 質疑等あるか。

: (質疑なし)

・郷土博物館からのお知らせ

西原郷土博物館長 : 令和6年4月に来館者が100万人に達成し、7年3月21日に記念植樹を予定している。

田中委員長 : 質疑等あるか。

: (質疑なし)

1 1 その他

木村委員 : 袖ヶ浦市音楽協会より2月16日に第113回袖ヶ浦市音楽協会定期演奏会が開催されるので、ぜひご来場いただきたい。

重田生涯学習課長 : 2月1日に山野貝塚講演会を開催する。職員から山野貝塚の発掘調査の報告をはじめ、講演会を予定している。ご興味のある方はぜひご来場いただきたい。

午後5時00分閉会

令和6年度第5回

社会教育委員会議

日 時 令和7年1月31日（金）
午後3時00分～
場 所 平岡交流センター2階会議室

次 第

- 1 開会のことば
- 2 委員長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 議 題
 - (1) 市民三学大学講座の在り方について
- 5 報告・連絡
 - (1) 令和6年袖ヶ浦市生涯学習特別奨励賞及び生涯学習奨励賞について
 - (2) 令和7年度社会教育委員の年間活動計画（案）について
 - (3) 令和6年度君津地方社会教育推進大会の結果報告について
 - (4) 各種事業の実施結果について
 - ・令和7年袖ヶ浦市二十歳を祝う会
 - ・2025袖ヶ浦市新春マラソン大会
 - (5) 今後の事業の実施予定について
 - ・第29回ふれあいフェスティバル
 - ・ウォーキングフェスタ2025 in 袖ヶ浦
 - ・図書館からのお知らせ
 - ・郷土博物館からのお知らせ
- 6 その他
- 7 閉会のことば

令和6年度第5回

社会教育委員会議 資料

日 時 令和7年1月31日（金）

午後3時00分～

場 所 平岡交流センター2階会議室

目 次

次第4 議 題

- (1) 市民三学大学の在り方について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 ～ 3 7

次第5 報 告 ・ 連 絡

- (1) 令和6年袖ヶ浦市生涯学習特別奨励賞及び生涯学習奨励賞について
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3 8 ～ 4 2
- (2) 令和7年度社会教育委員の年間活動計画（案）について P 4 3
- (3) 令和6年度君津地方社会教育推進大会の結果報告について（当日報告）
- (4) 各種事業の実施結果について
- ・ 令和7年袖ヶ浦市二十歳を祝う会・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4 4 ～ 4 7
 - ・ 2025袖ヶ浦市新春マラソン大会・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4 8
- (5) 今後の事業の実施予定について
- ・ 第29回ふれあいフェスティバル・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4 9 ～ 5 0
 - ・ ウォーキングフェスタ2025 in 袖ヶ浦・・・・・・・・ P 5 1 ～ 5 2
 - ・ 図書館からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5 3
 - ・ 郷土博物館からのお知らせ（当日報告）

議題（１）市民三学大学講座の在り方について

６年度は、市民三学大学講座の在り方について、７月と１０月の２回、勉強会を行いました。

７月の勉強会の議事録は、２ページからの【資料１】になります。

また、７月の勉強会で委員から出た質問等の回答を１０ページの【資料２】にまとめました。

１０月の勉強会の議事録は、１８ページからの【資料３】になります。

そして、１２月２日に小泉委員から、３１ページからの【資料４】「袖ヶ浦市社会教育活性化試案」の提出がありました。

１２月の会議時には、勉強会の開催がありませんでしたので、これらの内容を踏まえ、小泉委員の提案についてのご意見及び、他の社会教育事業についても、改善したほうがよいなどのご意見を皆様に提出していただきました。

１２月２７日には、小泉委員から追加の意見提出がありました。３３ページの【資料５】になります。

３４ページからの【資料６】には、１月２３日１４時までに提出のあった皆様からの意見がまとめてあります。

本日の会議では、これらの内容を議題として話し合い、６年度のまとめとしたいと考えています。

皆様の率直なご意見をお願いいたします。

【資料1】

令和6年度第1回袖ヶ浦市社会教育委員勉強会

- 1 開催日時 令和6年7月12日 午後2時開会
- 2 開催場所 袖ヶ浦市役所 北庁舎5階 会議室
- 3 出席委員

委員	平川 真	委員	木曾野 真紀
委員	二宮 義文	委員	小泉 康
委員	田中 雪夫	委員	佐々木 眞由美
委員	木村 育子	委員	中山 正紀
委員	在原 潤	委員	岡田 康
委員	稲垣 昭彦		

- 4 欠席委員

委員	松井 恭子	委員	佐久間 正博
委員	畠山 真一	委員	西田 隆司

- 5 出席職員

生涯学習課社会教育班長	君塚 和枝	生涯学習課主任主事	川俣 雄平
-------------	-------	-----------	-------

- 6 議題

(1) 市民三学大学講座今後のあり方について

- 7 議事

議題(1) 市民三学大学講座今後のあり方について

事務局君塚：資料のとおり説明

小泉委員：※説明途中

まず、質問させてほしい。

Q. 初めの頃、講座は何回実施していたか。

Q. どういった内容だったか。

Q. 市民会館で開催していたのか。

そのあたりを教えてほしい。

事務局川俣：何回実施したかは、資料のとおりである。

小泉委員：話し合いは毎回実施していたのか。

佐々木委員：当時は受講生を募り、参加者が決まっていた。

開催回数も多かった。

また、完全公開制ではなかったか。

事務局川俣：その通りである。

稲垣委員：小泉委員は当時、どのようなことをやっていたか知りたいのではないか。

小泉委員：受講生以外は会場に入れなかったのか。

事務局川俣：そうである。

小泉委員：レポートでも書いていたのか。

事務局川俣：1人1、000円払って文集を書いていた。

小泉委員：文集を書いていたことは分かったが、毎回話し合いは実施していたのか。

事務局川俣：過去の資料を確認すると実施していた。

小泉委員：それは毎回か。

事務局川俣：古い資料のため、電子データも残っていない。

そのため、必ず毎回実施していたかと言われると分からない。

小泉委員：だいたい分かってきた。

事務局川俣：先ほど、小泉委員も言っていたが、各公民館を巡回というのは平成7年当時、8～9回講演会を実施していたため、市民会館だけでなく、他館も巡回し講演会を実施していた。

しかし、現在は年2回の開催で、

- ・青少年健全育成推進大会（7月）

- ・生涯学習推進大会（2月）

記念講演として実施していることから、会場は市民会館だけである。

佐々木委員：以前は講師に合わせて、市民会館だけでなく、公民館でも実施していた。

稲垣委員：その当時の市民三学大学講座は、受講生がいて、講師を呼び講演を聴いて、その後、意見交換会を実施した。

佐々木委員：私が参加し始めた頃は、既に現在の形式で実施していた。

その当時、受付やアンケート集計を手伝っていた方がいた。

また、講師を囲んで話し合いをしていたかは、一般の参加者からは分からなかった。

- 事務局川俣：1998年（平成10年）～2009年（平成21年）は、ボランティアによる運営が行われていた。
現在は、生涯学習課職員や大会実行委員の方々が運営している。当時は、講演会のみで開催もあったため、生涯学習課だけでは運営できないことから、運営ボランティアが活動していたと思う。
- 佐々木委員：年4回開催あたりから、市主催の大会と合わせて市民三学大学講座を実施するようになった。
- 二宮委員：大田農林振興課長が担当の頃は、著名な講師をできる限り安く呼ぶために苦労していた。
- 稲垣委員：当時は、市民大学といった形でテーマを決めて、話し合いを行っていたが、途中から運営方針が変わった。
年6回開催していた頃は、1回目を文化講演会という形式で文化協会が仕切り、開講式を実施し市長または教育長に開会の式辞をもらっていた。
その後、予算がなくなったためか、生涯学習課がイベントに講演会を全てぶつけるようになったことで、推進大会の記念講演という形式になったことから、市民三学という意味合いから遠ざかってしまい、寂しいものになってしまっている。
- 佐々木委員：この後は、1人ずつ意見をお願いします。
- 岡田委員：私は、最初の頃に参加し、運営委員と広報委員をやらしてもらい講演内容をまとめていた。
袖ヶ浦駅まで講師を迎えに行ったこともある。
その際、平川方面に向かっていると、講師から「随分、寂しいところですね」と言われたことがある。
回数が減ったあたりは覚えていない。
- 平川委員：Q. 開講当初の講座生とはどのようなことをやっていたのか。
私のイメージでは、三学＝著名人の講演会というイメージであり、無料で行けるから有難い。
千葉ロッテに所属していた里崎選手の講演会は面白かったことを覚えている。
年7回→年2回になっており、予算の都合もあるかと思うが寂しい感じがする。
しかし、貴重な機会をもらえるのは有難い。
学校でも宣伝している。

中山委員：Q. 今回、三学を取り上げたのは、集客が問題なのか。

Q. 回数が問題なのか。

集客数が必要であれば、有名な人を呼ばないといけないと思う。
生涯学習がテーマであれば、そこまで人が集まらなくても良い
と思う。

Q. 予算の関係で何回開催できるのか。

Q. 集客が必要であれば集客方法をどうするか。

Q. ターゲットをどこにするのか。

何が必要なのか話し合うべきと思う。

在原委員：以前から、この形式で実施していたと思っていた。

普段聴けない方の話も聴くことができ刺激になり、非常に素晴らしい
と思っている。

過去に講座生を募り開催していたことが想像つかないが、果た
して今、そういった形式で開催した場合、一般市民が入ってくる
かといったハードルが高い気がする。

現在の形式は意味があると思うが、意見を交わし、高め合いたい
と言う人もいると思うので、両方やっていくのも有りだと思う。
現在、開催しているものについては人選が良く、あまり知らない
方でも話を聞けば面白い。

それはそれで意味があると思う。

講座生制度はハードルが高いかもしれない。

木村委員：この資料をいただき嬉しかった。

三学大学の成り立ちが凄い。

これは大事にしたい。

この事業は色々考えて作られている。

他市にはないもので袖ヶ浦市は誇っても良いと思う。

また、資料のデメリットを見てピンときた。

①講座生不在のため、継続した活動に繋がらない。

②講師の話を一方向的に聴く『講演会』で終わってしまう。

③講師やテーマにより参加者が増減する。

まさに今ではないか。

私が心配しているのは、出来るだけ皆さんの声に耳を傾けな
ければならない。

マンネリ化を防ぐ。

コロナ禍後のニーズに合わせていかなければならないと思う。

木曾野委員：15年前に移り住んだ頃から既に著名人の講演会だったため、袖ヶ浦市はお金があると思ったのが正直な感想である。実際に聴きに行ったのは2回だと思うが、1回はリクルート出身で杉並区立和田中学校・元校長の藤原和博氏だったが、話が上手く、「近くに座っている人と共通点を見つけましょう」というようにワークショップのようなものを行い、その後活かせる内容であった。

多彩な話が聞けるのは良いが、コンセプトが毎回ブレている気がする。

Q. 講師に講演を依頼した場合、袖ヶ浦市民に向けてどのような話をして欲しいか、どの程度打ち合わせをしているか。

事務局川俣：A. 袖ヶ浦市に絡めて話してほしいとお願いしている。

- ・令和4年度第2回講師…河合敦氏
ご自身で袖ヶ浦の歴史について調べてくれた。
その頃、広報そでがうらで鎌倉街道が取り上げられていたため、そこに絡めて講演をしてくれた。
- ・令和5年度第1回講師…木山裕策氏
歌系なので絡めることは難しかった。
- ・令和5年度第2回講師…木原実氏
テーマが防災であったが、前月に能登半島地震があり市民のニーズも高かった。
また、袖ヶ浦市のハザードマップも準備してくれた。
木原氏は集客も良かった。

事務局としてもアンケート結果を重要視する必要もあり、スポーツ分野の講演会は令和元年度の前園真聖氏以来、実施していなかったこと、また今回はパリ五輪も控えているため川澄氏になった。

スポーツ選手の講演で袖ヶ浦市に絡めることは限界がある。

木曾野委員：著名人はバラエティ・スポーツ・学術分野等をバラけさせて選んでいるのか。

事務局川俣：できる限り、同じ分野が連続とならないように選定している。

佐々木委員：講師に依頼する際、講演テーマは決められた中から選んでいるのか？

事務局川俣：いくつかテーマを頂いた中で検討している。

木曾野委員：市民三学のテーマがあるのであれば依頼する段階で袖ヶ浦に絡めて依頼していると思っていた。

私としては、何かしら絡めてくれると特別感が出ると思う。

田中委員：現状、推進大会の記念講演となっているため、青少年などテーマが決められてしまうのではないか。

事務局川俣：その通りである。

7月…青少年健全育成推進大会のため青少年に関わるもの

2月…生涯学習推進大会のため生涯学習に関わるもの

このようになる傾向がある。

以前のように年間5～6回も開催できれば自由にテーマを検討できるが、現在は記念講演の2回に絡めてテーマを決めなければならない、事務局としても厳しいものがある。

二宮委員：社会教育委員になった時から三学大学を意識した。

その時は、完全に著名人を集めての開催だった。

大きな大会であれば柔道の古賀選手や谷選手など、大会に合わせて集客を狙ったやり方、それ以外の時は小さな公民館を使って参加者80名程度と少ない数だったが、ローカルなもの、分野が狭まったりもしたが専門的な内容だったと思う。

以前、諮問を受けて三学のあり方について検討した際、限られた予算の中で、どういうやり方をすれば良いのかを話した。

最初の頃、何のために開催するか目的がはっきりしていたが、その代わり参加者数はあまり振るわなかった。

熱意、参加意欲がないとなかなか出てもらえない。

著名人を呼び、良い話、一流な話を聞き、確かなものが得られる良さがあった。

他市からも沢山来ていた。

以前、諮問を受けたときは、7～8回開催していたものを5回以下にしたいというのが見え見えであった。

そこで私たちは、

・袖ヶ浦市は教育の街を目指しているのではないか。

・三学で良い話を聞いて、それをきっかけにして生涯学習に動く、講座を開いて専門的な話をする方向に持っていくべきではないか。

・三学は、教育を羨望する市のバックボーンとして扱うべきだと話をしたことを覚えている。

田中委員：初めの講座生制度は個々に自分たちでやっている感があった。講師を呼ぶ時も講座生が中に入って人選もしていたと思う。当時、集客できる講師だと費用がかかり、最後の方に呼ぶ講師は残りの予算内で呼べる人選びとなり失礼感があった。現在の2回開催も止めようかと一時話があったと思うが、少なくとも推進大会2回分の三学大学は残そうと言う話になった。これを以前の回数に戻すとしたら、それだけ集客できるかは難しいと思う。

小泉委員：一番感じたことは、5ページの講座生制度で行うと最後はパンクすることが分かった。現在、千葉市ではいきいき大学を開催しており、私は理事を務めているが、大変である。運営委員のなり手不足が一番大変なことだと思う。自分たちではなかなかできないと思う。定員50名に対し、122名の講座生を少人数で掌握し、全てやることは難しい。話し合いを行うことは、もっと大変だと思う。その後、広報・便り・文集を発行し、お別れ会を開催することは、今ではできないと思う。私は講座生制度にはしたいと思うが、今のやり方とダブらせてできないか。現在の三学2回はそのまま、その中20名でコースを作り、私はプラチナコースという名前が良いと思うが、そこで1年単位でやっていくのはどうだろうか。答申の3ページにもあるが、公開講座を2回、専門講座として各公民館の事業にいくつか参加し卒業していくのはどうだろうか。三学大学は、公開講座と各公民館で開催している講座を全部合わせて三学大学と言う。そういう発想に変えていけば、今やっている事と大差はないが、新たな制度ができるのではと考える。そういうのをやりたい人はあまりいないと思うが、木更津市でやり始めた『木更津市民カレッジ』地元学（博物館中心でやっている）、清和大学、木更津高専の講座と3つの講座に参加していくものがある。君津市では、『生き生き百歳大学』健康づくりなど長寿向けであり、30名程度と人数を絞り開催しているが、すぐに締め切って

いる。

人数も絞っているのに、そこまで運営は大変ではないと思う。
つまり需要はあると考える。

『三学大学プラチナコース募集』としたらチャレンジする人が出てくると思う。

最初から100～200名と考えなくても、1～2期生、各20名程度と小規模でやっていき、少しずつ増やしていけば良いのではないか。

また、どこかのサークルに必ず1年間所属し、活動する条件をつけても良い。

現状、サークル自体の会員も減少傾向であることから会員を増やすための相乗効果になるかもしれない。

体育、芸術、地域関係と色々なものを組合せて工夫すると良い。
ウォーキングフェスタなどイベント3回のうち1回は出ると単位がもらえるなどすれば良いと思う。

佐々木委員：15年前の諮問時の事も考えると、公開講座・専門講座と言いながら、実際には、専門講座は1つも成り立たず、公開講座のみでやってきた。

答申はしたものの、それは活かされないままだった。

今また新しいアイデアが浮かぶかもしれない。

アイデアを含めた考えを、次回勉強会で話し合いたいと思う。

【資料2】

第1回袖ヶ浦市社会教育委員勉強会でご意見をいただいた内容への回答

- Q. 開講当初の講座生とはどのようなことをやっていたのか。(平川委員)
- A. 運営委員長、副運営委員長、書記がいた。
湯茶接待・会場準備・講座終了後の意見交換・後片付け等を行っていた。
- Q. 今回、三学を取り上げたのは、集客が問題なのか。
回数が問題なのか。(中山委員)
- A. 小泉委員から毎年のように市民三学大学講座今後のあり方検討を求められており、今年度の第1回社会教育委員会議でもご指摘をいただいた。
そのため、市民三学大学講座を取り上げた。
開催回数については、現在の実施計画により、令和7年度までは集客が求められている。※1回あたり450名(オンライン受講者含む)
- Q. 予算の関係で何回開催できるのか。(中山委員)
- A. 来年度予算は未確定であるため、明確に何回と回答することは難しい。
- Q. 集客が必要であれば集客方法をどうするか。(中山委員)
- A. 現在、広報そでがうら・新聞折込の地域新聞・回覧板・HP・各種SNS・インターネット版の各種記事へ掲載するなど、様々な方面に周知している。
また、最近では、講演テーマに合わせた事業所へも周知を行うなど、これまで以上に周知に力を入れている。
更なる、周知方法は今後検討していきたい。
- Q. ターゲットをどこにするのか。(中山委員)
- A. ターゲットは記念講演による。
- | | | |
|-------|----------|-----------|
| R5第1回 | 木山 裕策 氏 | 子育て世代の保護者 |
| R5第2回 | 木原 実 氏 | 全世代 |
| R6第1回 | 川澄 奈穂美 氏 | 子育て世代の保護者 |
| R6第2回 | 池田 清彦 氏 | 全世代 |

Q. 講座生制度にしたいと思うが、今のやり方とダブらせてできないか。
現在の三学2回はそのまま、その中20名でコースを作り、そこで1年単
位でやっていくのはどうだろうか。(小泉委員)

Q. 公開講座を2回、専門講座として各公民館事業にいくつか参加し、卒業して
いくのはどうだろうか。(小泉委員)

・木更津市

『木更津市民カレッジ』地元学(博物館中心でやっている)、清和大学、木更
津高専の講座と3つの講座に参加していくものがある。

・君津市

『生き生き百歳大学』健康づくりなど長寿向けであり、30名程度と人数を絞
り開催しているが、すぐに締め切っている。

Q. 『三学大学プラチナコース募集』としたらチャレンジする人が出てくる。

最初から100~200名と考えなくても、1~2期生、各20名程度と小
規模でやっていき、少しずつ増やしていけば良いのではないかと。

また、どこかのサークルに必ず1年間所属し、活動する条件をつけても良い。

現状、サークル自体の会員も減少傾向であることから会員を増やすための
相乗効果になるかもしれない。

体育、芸術、地域関係と色々なものを組合せて工夫すると良い。

ウォーキングフェスタなどイベント3回のうち1回は出ると単位がもらえ
るなどすれば良いと思う。(小泉委員)

A. 次ページで説明

袖ヶ浦市教育委員会から【市民三学大学講座の今後のあり方】について諮問を受けた際、袖ヶ浦市社会教育委員が実施したアンケート結果（平成20年度）

市民三学大学講座・生涯学習推進大会・公民館登録サークル・
来館者にアンケート調査を実施 ※521件回答（未回答あり）

Q. 市民三学大学講座をどのように開催することが望ましいか。

参加方法	講座生を募集・登録する『講座生』制度	42
	誰でも参加できる『公開講座』制度	455
テーマ	1つのテーマを設定し、専門的に学びたい	97
	幅広いテーマを設定し、多くのことを学びたい	390
学習方法	講師と意見交換や質疑応答ができるような『講座』方式	223
	講師の話を聴くだけの『講演会』形式	276
講師	地域活動実践者など、身近に感じる生涯学習実践者	208
	著名人・スペシャリスト	304
講座生	『講座生制度』に変更した場合、登録する	109
	『講座生制度』に変更した場合、登録しない	340

・講座生登録の意向（年代別割合）

年代	する	しない
20歳未満		
20歳代		4
30歳代	5	38
40歳代	8	42
50歳代	33	70
60歳代	50	132
70歳代以上	12	50
無回答	1	4
合計	109	340

Q. 学習したことを『地域での活動に活かす』ために必要なこと

- ・仲間づくりの場 202件
- ・身近な活動拠点 177件
- ・継続した学習活動 126件

Q. どのような理由で市民三学大学講座に参加したか。

- ・講師に興味関心があった。 181件
- ・テーマに興味関心があった。 72件
- ・講師の話を直接聞ける。 71件

Q. 講座生限定で開催することについてどう思うか。

否定的意見

・制限されると参加しにくくなる
・様々な制約が出てきそうで困る
・現代の人は忙しいので、難しい
・税金で運営されている以上、自由参加が望ましい
・限定すれば参加する人が少なくなる
・講座生限定だと講座生が又減るのではないか
・公的機関で開催するのであれば、間口は常に広く、限定するのはいけない
・市の講座として、参加者の特定があるのは望ましいとは言えない
・せっかく講師に来ていただくのであれば、より多くの人に講演を聴いてもらう方がよい
・いくら良い講座でも出席者が少ないと税金の無駄
・登録などの手間を考えると面倒
・もっと若い方々にも積極的に参加してもらいたいと思うので、限定の場合は申し込まない
・年齢的に、時間に余裕のある人だけになる
・人が集まらない
・講座生であっても自分の興味のないことには参加を控えてしまう
・あまり制限されると参加しにくくなる
・良いことだと思うが、自分のことについて考えると、現在は継続して講座を受ける時間的余裕がない
・興味があっても気軽に参加できない

・生涯学習の場と捉えて、公開講座として続けてほしい
・開講時、講座生だった。その時は一生懸命参加し、勉強にもなったが、現在は選んで参加しています。この方が自由で気楽に参加できて良い

肯定的意見

・同じ興味のある仲間の集まりだから楽しく学習できる思う
・仲間意識ができる
・大人数で運営することは長続きしないと思う
・講座生として登録すると出席しなければならないという思いが強くなる

折衷案

限定により、地域活動のリーダー的な人を育てることに役立つ
講座生を優先にして聴講のような形で一般の人も参加できると良い
出席できない受講生が多かった場合、一般参加者も入れるようにする
何回かは公開でも良いと思う
地域活動に役立てるための講座であれば限定した方が良い
現在の方法も残し、その上に限定方法を取り、より専門的に内容を高度にする

先ほど説明したとおり、当時のアンケート対象者は、市民三学大学講座参加者・生涯学習推進大会参加者・公民館登録サークル・公民館来館者である。

この方々は、一般市民と比較して、社会教育に興味関心があると考えられる。

それでも、

Q：講座生制度に変更した場合、講座生に登録するかとの問いに対して、

A：はい 109件

いいえ 340件

このように大多数の方が講座生制度に魅力を感じていなかった。

前回、アンケート調査を実施してから、16年経つが、どのくらい数値に変動があるのだろうか。

当時よりも、様々な学習メディアが発達している現在の学習環境を考えてみても、16年前より【はい・いいえ】の数値に開きが生じていると考える。

こちらについては、社会教育委員の皆様のご意見も伺いたい。

長年、社会教育に携わってきた方々の想いや過去の資料を読み解く

市民三学大学講座の草創期は、公民館講座同様、講座生制度から始まっている。そのため、他市は実施しているが、袖ヶ浦市は実施していないという訳ではない。様々な経緯があり、現在の形式で実施しているため、ご理解いただきたい。

現在は、講師派遣会社を通して講師選定することが多いが、当時は様々なツテやコネクションを使い、直接交渉して講師を招聘していることが多かった。

※今回の川澄選手は直接交渉 ※直接交渉は12年ぶり

市民三学大学講座が開講した当時は、当日、講師から講話を聴いた上で、振り返りの話し合いや、講話内容の記録をまとめることもしていた。

開講当初は年間11回、平成10年当時は、年間7回実施していた。

平成12年～17年は

5月（文化協会と共催：テーマは文化）

6月（環境月間とタイアップ）

7月（青少年健全育成推進大会記念講演）

9月（スポーツ）

10月（任意）

11月（任意）

2月（生涯学習推進大会記念講演）というテーマで実施していた。

長らく講座生制度で運営するうちに、講座生が固定化し（このあたりは公民館でもあり得る話）、講座生そのものも減っていく中で、講座生制度を廃止し、

平成7年度…公開講座として再出発

平成9年度…講座運営委員の廃止

平成10年度…運営ボランティアの開始

そういった経緯と、年々市民三学大学講座の予算が削減される中で、

平成20年度…社会教育委員会議に諮問

その際に、市民ニーズを把握するためアンケート調査を実施

※結果は先ほど説明した内容

その結果も踏まえ、社会教育委員会議で審議の結果、公開講座として継続実施となっている。

その最大の理由は、過去の事業実施の中で、講座生制度での実施が行き詰ったことが大きな原因だと考えられる。

具体的には、本来は講座参加の先に、参加した講座生による社会教育の輪を広げてもらうことがあった。しかし、実際には社会教育の輪は広がらず、講座生の減少・固定化、運営委員好みの講師選定などの運営委員による市民三学大学講座の『私物化』など様々な弊害を生んでしまったとのこと。

そういった中で、現在は、市民三学大学講座を生涯学習の入口に位置づけ、学習のきっかけとしての講座として実施されている。

社会教育の間口はとても広く、市が取り組んでいる全分野と同等ではないだろうか。

つまり、市が抱えている全ての課題解決のためのツールとして社会教育があり、人と人を繋げ意見を交し合う場を作り、課題解決に繋げるのが社会教育の重要な仕事であり、より良いまちづくりはその延長線上にあると考える。

そのための入口づくりとして『市民三学大学講座』を位置づけ事業実施できれば良いが、簡単にはいかないのが現状である。

- ・『生涯学習』と『社会教育』は異なる。

生涯学習：自己の充実・啓発や生活の向上のため、自発的意思に基づき、必要に応じ自己に適した手段・方法を選択して、生涯を通じて行う学習
[1981（昭和56）年中央教育審議会答申]

社会教育：個人の要望や社会の要請に基づいて広く社会において行われる教育
（教育基本法第12条）

国民の生活のあらゆる機会と場所において行われる各種の学習を教育的に高める（支援・推進する）活動の総称

[1971（昭和46）年社会教育審議会答申]

- ・市民三学大学講座開設（吉堀 慶一郎 前袖ヶ浦市長 野里在住）

私は昭和54年（1979年）に袖ヶ浦町長に就任した。当時の袖ヶ浦の社会風潮、民情はどうであったろうか。漁業権の全面放棄と補償金の取得、区画整理の進行と土地の値上がり、人口急増と千葉都民型の志向などをあげることができる。また、農村地帯では、減反と米余り、出稼ぎと兼業農家の増加、ふるさと意識と郷土愛の希薄さが憂慮された時代であった。

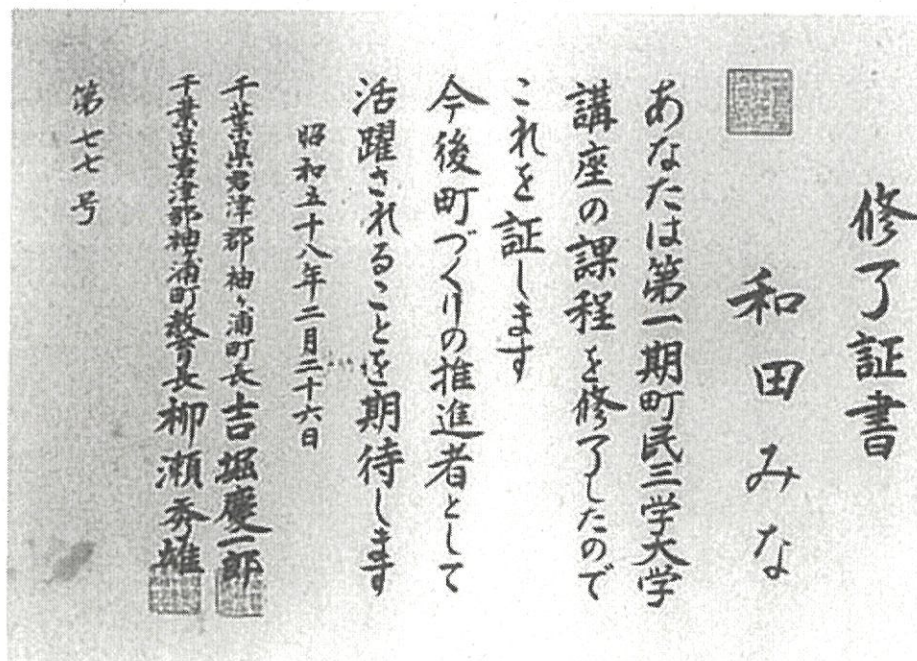
人口急増の中で、最も大切な施策は義務教育施設の整備であった。昭和56年に小学校建設を迫られた際、用地取得の説明会に臨んだ柳瀬教育長が地権者から「ブローカー来たか」の暴言を浴びせられ、翌朝登庁早々にその報告に来たことを思いだす。この時私は、いくら入れ物をつくってもこれと平行して魂を入れなければ真の町づくりはできないと考え、郷学の振興を決意したのである。私の農士学校時代の師であり、歴代総理の指南役と仰がれた安岡正篤先生は、明治維新はどうして成功したか、それは全国260余藩で立派な政治が行われ、立派な教学（郷学）があり、国家の一大事に全国各藩から憂国の志士を輩出することができたからである。また、人間個々に人格が、家にはそれぞれ

家風があり、会社には各々社風がある。同じように、市町村には独特の郷風がなければ真の自治体とはいえない。世界いずれの国といえども、その国の真の歴史と文化を継承するものは地方であると教えられた。私は、袖ヶ浦の郷風づくりを三学大学の開設に求めたのである。三学とは、いうまでもなく江戸時代の大儒佐藤一斎の、「幼にして学べば壮にして為すあり、壮にして学べば老いて衰えず、老にして学べば死して朽ちず」からとったものである。

講座は昭和57年(1982)度から実施したが、開設に当たり、町は予算と講師の選定折衝に当たること、講座生は講師の湯茶の接待、会場の準備、講座終了後の意見交換などを努めて自分たちで行い、学び習うという謙虚な姿勢と積極的な受講態度であることを要望した。一年を終了して講座生の感想文を読ませていただくと、一様に講座に参加して良かった、是非継続して欲しいという歓喜に満ちた文章が数多くあった。そして、生涯学習の大切さをしみじみ感じ、自分たちの町に誇りと自信を持つことができるようになり、この町に移り住んで良かった、新住民の意識の抜けない私にとって何よりのチャンスであったなど、予想もしなかった反響を得ることができた。

こうして現在まで三学大学講座が続けられているし、講座開設後には普段の最も身近な学習施設として図書館の建設、旧村単位の公民館五館構想の実現、博物館の建設などの事業に発展していったのである。

【袖ヶ浦市史 通史編3 近現代参照】



町民三学大学講座修了証書

【資料3】

令和6年度第2回袖ヶ浦市社会教育委員勉強会

- 1 開催日時 令和6年10月4日（金）
前半：午後2時～午後2時45分
後半：午後4時45分～午後5時20分
- 2 開催場所 袖ヶ浦市役所 北庁舎 視聴覚室
- 3 出席委員

委員	平川 真	委員	稲垣 昭彦
委員	松井 恭子	委員	木曾野 真紀
委員	二宮 義文	委員	小泉 康
委員	田中 雪夫	委員	佐々木 眞由美
委員	畠山 真一	委員	中山 正紀
委員	木村 育子	委員	西田 隆司
委員	佐久間 正博		

- 4 欠席委員

委員	在原 潤	委員	岡田 康
----	------	----	------

- 5 出席職員

生涯学習課社会教育班長	君塚 和枝	生涯学習課主任主事	川俣 雄平
-------------	-------	-----------	-------

- 6 議題

(1) 市民三学大学講座今後のあり方について

- 7 議事

議題（1）市民三学大学講座今後のあり方について（前半）

事務局川俣 : 資料のとおり説明

小泉委員 : 3ページで、『講座生』と『公開講座』と選択肢は二択となっており、どちらかになっている。

面倒だから公開講座が良いとなる傾向があるのではないか。
私が考えるのは、公開講座は残して、その中にプラチナコースという20～30名程度のコースを作るのはどうかとい

うものである。

そのため、二者択一ではなく中間的な意見である。

他市も色々なことをやっている。

講座生の開催が望ましいと回答する人が42名いる。

公開講座だと何百人だが、講座生なら20名程度でいいはず。

君津市で実施しているのは30名だったと思う。

人数が多いか少ないかではなく、その中の20名であれば、3ページの全ての項目でクリアしている。

年代別でも講座生登録の意向を示す人が109名いるということはそれだけ需要があるのではないか。

仲間作りの場でもある。

去年から今年にかけて各サークルで辞めた人、新たに入った人が何人いるかということである。退職して、老後の生活の中で、新たに自分の人生を社会教育に向けてサークルに入り活動した人がどれ位いるか。今までの流れの中でどのようになっているのか。

例えば、講座生にした場合、私は年間10回実施しようとは思わない。各サークルやボランティア団体に入って1年間活動したら1単位とする。そうすれば、サークルに入ってくる人がいると思う。

木曾野委員 : 単位、修了、コース等何か設定しなければいけないのが分からない。本人がやりたければ自分の好きなようにデザインすれば良いだけのことである。

しかし、サークル一覧表は何か始めたい人には分かり難い。そのアクセスをきちんとすれば良いと思う。

小泉委員 : そうというのが要らない人はいい。

木曾野委員 : でも、設定したいのではないか。

小泉委員 : ○○コースをやり、私は一年間やったなど、そういうものが要らない人は要らない。

しかし、そういうのが欲しいという人も確かに需要があると思う。

君津市もやっている。だから需要はある。

佐々木委員 : 市民三学大学講座は今、年2回である。

例えば、20名講座生として登録し、三学の他の講座の時、誰を講師にするのか。その仲間たちでただテーマについて話

- し合うだけなのか。講師を定めないのであれば、仲間内での話になるのではないか。
- 小泉委員 : 公開講座で2回学ぶ。それ以外はサークルで学ぶ。新たに、根形だと地域再発見講座があるため、そういうのを1単位、1単位…全部で何単位とったら卒業といった感じである。
- 佐々木委員 : クリアしたら、市長や教育長から修了証書みたいなものを授与されるということか。
- 小泉委員 : 入学式、卒業式があっても良いと思う
入学式を5月、卒業式を3月にやる。
- 佐々木委員 : 1単位という時、各種サークルがある。
- 小泉委員 : 最終的には、様々な講座からどれを単位としていくのか、考える。
- 佐々木委員 : サークルは好きにやっているはずであり、統一性がない。
- 事務局川俣 : 今回、A4横で事業をまとめたが、参加する年代層によって感じ方が違うと思う。
公民館講座のどれを単位付けするということも、高齢者事業と中学校家庭教育とは全く異なる。
そこを定める必要があるか。
- 小泉委員 : 普通の大学でも色々な講座があり、好きなカリキュラムを選んで卒業している。
- 佐々木委員 : それは大本に大学があるからである。
- 小泉委員 : これだってある。
- 木曾野委員 : 大学は卒業する目的がはっきりしているが、生涯学習において、卒業というのはどこか馴染まない。
- 小泉委員 : そういう人は入らなくて良い。自分でやれば良い。
それぞれの経過も、年に何回かは確認する必要があると考える。そういった時に講師だと費用が掛かるから、健康や防災といったテーマも選べば市役所の方が講師になることも可能である。別途、講師を呼ぶのもありである。
- 稲垣委員 : 今日の勉強会は、三学のあり方だったと思うが、小泉委員の話だと個人のやりたい事を訴えているだけである。三学とは全然違う話である。
三学の中に新しい講座を開いて企画を作り、募集しませんかという話だと思う。
- 小泉委員 : そうである。
それは社会教育の入り口になると思う。

- 稲垣委員 : 社会教育の入り口は沢山あり、取捨選択しているところ。
その中でやりたい人を集めてということになると新しい企画で新しいコースを作って、さあ、いかがでしょうかというメニュー作りになる。
- 小泉委員 : それを三学大学の中に持つ。
- 稲垣委員 : 三学は、目的があり、公開講座という市の計画があるため、三学とは別に〇〇大学プラチナコースという名目のコース作り、市民集めて学習プログラムを作っていく話ではないか。
- 小泉委員 : それをダブらせていけば良いと思う。
- 稲垣委員 : ダブらせる必要は一切ないと思う。
冠の取り方は取捨選択色々あると思うが、三学という名前を看板にして〇〇コースを作るなど、それはやり方だと思う。
- 小泉委員 : 公開講座をなくすことは出来ないのではないか。
講座生に変えることも出来ない。
そのため、どうしようもなくやろうとすれば折衷案しかない。
- 稲垣委員 : 小泉委員のやりたいのは、講座を作り、三学の中の1プログラムとして作ったらどうかという話である。
それをするには、企画書を作り、具体的にしていかなければならない話である。それを今、ここでどうのこう言ってもダメである。
- 小泉委員 : それをやるのであれば、そういう方針をある程度、可能性もあることも認めてくれないと作れない。
- 稲垣委員 : それはこれからの話である。作ってくれないではない。
- 小泉委員 : そういうことも考えられるのであれば、細かく計画する。
- 稲垣委員 : 社会教育委員で話し合い、そういうプログラムがあった方が良くとなれば、詳細を詰め、話し合いがまとまれば、生涯学習課に投げかけ、それで良いということになれば、社会教育委員にフィードバックされてくる流れである。
今ここで、こうしろと言っても無理な話である。
プロセスを踏んでいかないといけない。
現時点では、今、市民三学は公開講座だと分かったという話。
- 木村委員 : 令和5年度市民三学大学講座実施要項が出されている。
しっかり押さえられている。
現在も継続されており、計画も立てられている。

- 小泉委員も良い話をされているが、それはそれとして…
- 小泉委員 : 私が言っているのは、来年どうかではない。
- 木村委員 : 私は、三学大学はこれで良いと思う。
しっかり内容が押さえられており、真剣に参加して会場いっぱいになるほど人が来ているため、私は三学大学を崩したくはない。
- 小泉委員 : 私は崩してはいない。
- 木村委員 : 色々な話が入ってきて、変えたいという意味が入っている。
- 小泉委員 : 今の三学はそのままで良い。
その中に、ということであれば、両立はできるはずだ。
- 佐々木委員 : 新たな提案というか、三学の中にプラスしていくのであれば、教育委員会がどう受け止めるかは別として、ウンと言わざるを得ないプランを立ててしまう方が良いのではないかと。
やってくれ、やってくれと投げかけているだけではダメ。
- 小泉委員 : やってくれとは言っていない。
計画を立てて良いのか。
社会教育委員の中である程度、考えられて、作ってみても良いのであれば作る。
それもなくて、ただやってしまうと潰れて終わりだと思う。
- 稲垣委員 : それであれば、小泉委員の方から、こういうプランがあるので提案したいのですがいかがですかと社会教育委員に投げかけてもらい進めてもらって良いのではないかと。
- 佐々木委員 : 一人のプランではなく、社会教育委員全体で話し合いたいようであれば、新たな勉強会のテーマに提案されたら良い。
- 小泉委員 : 袖ヶ浦市の社会教育のメインになっているのが三学である。
三学大学は縮小してきたけど、その形で良いのか。
社会的な動きの中で、シニアとして社会教育に携わっていく年齢が上がってくる。どんどん狭まってくる状況で逆転していかなければいけない。そこからの発想である。
- 事務局川俣 : 今も縮小という言葉が出たが、縮小せざるを得ない部分もあることがご理解いただきたい。
昔であれば、文字起こしをして、要旨をまとめ、広報に掲載していたが、著作権等の問題から掲載できなくなった。
そういった経緯があり、なくしているのであって、ただ単に過去の担当がやらなくなった訳ではない。
- 事務局川俣 : これまで、三学に対してモヤモヤしていた部分だと思うが、

- 私は現在、入庁5年目であるが、入庁した時から2回である。
- 小泉委員 : でも、昔は何回もやっていた。
- 事務局川俣 : それは、昔である。今の現状を私に言われても、どうしようもできない部分もある。
- 小泉委員 : 私はやってくれと言っている訳ではない。
全国どこでもサークル人口が少ないなど色々ある。
社会の動きがそうになっているからとって、そのままではダメになる一方。働きかけて、違うこと増やしていかないと足踏みしていたら後退してしまう。良くない。
- 稲垣委員 : そういう状況は10年前から文化協会では重々承知している。後任が入らず自然消滅する、新しい団体が入らず育っていかない。
各公民館の担当職員も色々悩んでいた。
団塊世代の人が定年退職を迎えて、その人たちを地域の指導者や講師として招き、講座する構想はあったが、その後、定年延長～再雇用で65歳まで人が出てこない。若い人たちに至っては、自分たちの趣味・活動で一切公民館活動には入ってこない。そういう矛盾点と小泉委員の考える間口のイメージをどうやって拾い上げ、どのように活性化させていくのか。今までの課題でもあり、話し合いはして新しい糸口を見つけ出すのは非常に良いと思う。
当事者として、10年以上経験しているが、どうするかと模索している。
- 小泉委員 : 何かを起こさないと増えていかない。
- 木曾野委員 : 三学は入口かもしれないが、市がやっている社会教育は、公民館講座がメインだと思っている。そちらの参加に宣伝の力を入れたらどうかと思う。
三学は、スペシャルなものであり、普段の活動は各公民館で行われるものだと思う。サークル、ボランティア団体の人が少なく先細りになるのは人口の問題だと思う。メインは公民館活動と考える。三学に来てもらえば、公民館活動の宣伝に使えると思う。
- 小泉委員 : 私が考えるのは、ダブらしたらどうかということである。
プラチナコースに入る人は1年間かもしれないが、サークルに入る。
そういうチャンスで、新たな自分も見つけてもらえれば。

そうすると、サークル・ボランティア団体自体も少し活性化すると思う。上手い具合にいかないかもしれないが、毎年やっていたら成果も出ると思う。何かアクション起こすべきだと思う。

- 稲垣委員 : これから必要であれば、アクションを起こさなければいけないのは事実である。しかし、プラチナコース作って20名が好きなサークルに1年在籍して講座が終わるとあっても、受ける団体からしてみれば途中から入って来られるのは、新規お断りのケースもある。色々な壁もあるが、その時の話し合いの打開策だと思う。
- 小泉委員が考えているプランがあるのであれば、皆さんに提案して企画書を作り、話がまとまれば生涯学習課に投げかけ、採用されるものなのかどうなのか判断してもらいフィードバックされたら皆で話し合うという一つのプロセスだと思う。
- 小泉委員 : 生涯学習課としては、考える余地はあるのか。
- 稲垣委員 : それはこちらが考えることでない。
- 佐々木委員 : こういう学習会は、事務局二人が担当で資料等準備してくれている。提案されたら同席してもらおうと思うが、色々準備とか自主的にできるようにするとか、丸投げで勉強会の設定をするのは色々大変だと思う。
- 事務局君塚 : 自主的にサークル活動的な形で実施したいと案を出してもらい、その中でこうしたらどうか、PR方法とか助言させてもらうことはできるが、生涯学習課の事業として、三学ともう一つは難しいと思う。
- 佐々木委員 : 以前、各委員の自主研究とかあったが、生涯学習や社会教育に関するテーマで研究したものを発表する場があった。ある程度まとめ、たたき台になるもの等で提案し、みんなの意見を交わして発展していけば良い。まずは、今の熱意で動き、皆を巻き込むことができれば、話し合いの場所になっていくのではないか。
- 生涯学習課に作ってもらえますかではない。
- 小泉委員 : 作ってこようと思ったが、みんなが反対するのに一人だけ出してもしょうがない。
- 稲垣委員 : 例えば、考えている事があるので次、発表したいなど会長をはじめ事前に連絡すればよいことである。

以前から、話し合いの時間がなく終わっていたので、会議自体の運営法もタイムスケジュールなど見直して欲しいと思った。やり方は工夫すれば良い

- 木村委員 : 具体的な仮説が出れば、検討し、前に進めるかもしれない。
木曾野委員 : 生涯学習ノートみたいなものが出来たら面白いと思った。
〇〇に参加したと自身で記録していき、これだけ学んだと本人が見返した時に励みになると思う。

社会教育委員会議のあり方について (後半)

- 事務局君塚 : 社会教育委員会議のあり方についてご意見いただきたい。
佐々木委員 : 最近の社会教育委員会議は議題、報告があって終わり、各自の意見を言う場所がなく、一回も発言せず終わる方もいてモヤモヤしているものがある。
分からないことも沢山あると思う。
ラフな形での話し合いがなく、社会教育委員15名の一体感がないため、今回のような自由な発言の機会は有難い。
会議の中のその他では取り切れないものがある。
今回のような、社会教育や生涯学習について疑問・意見を出し合える場所になれば良いと思った。
小泉委員は今回、三学をこうした方が良いという構想があると思う。そこまでではなくても、袖ヶ浦市の社会教育・生涯学習について目についたもの、想い、熱意を語る場になれば良いと思う。
- 事務局君塚 : 社会教育委員会議の進め方もあると思うが、事業報告や報告時間は長いか。
木曾野委員 : 事業報告とか正直いらないと思う。
会議資料は1週間前には頂いて読んでいる。
補足なら分かる。
- 小泉委員 : 何年も参加して思うのが、本当に説明が長い。
資料を読んでもくるので、+αがあるなら良いが、質問を受け付けてくれる方が良い。
- 二宮委員 : 私が社会教育委員になった時、社会教育委員って何するのと思ったが、答えはないのに自分たちで作っていった。
県で集まる人たちは意見しか言わない。自分のベースを持っているので馬鹿なことを言うと太刀打ちできなくなるため、

勉強するしかない。

今日もあったが、聞きなれないローマ字など、ある程度勉強しないとついていけない。勉強会を始めたのも15年程前からであり、自分たちで知識を高めていこうということである。

佐々木委員 : 市の社会教育委員であるため、市内の公民館などで色々行事があるため、見て、体験して、足を運ぶことが大切である。アンテナを張っていく必要がある。

良い点、悪い点、改善点を見つけないかと思う。

木曾野委員 : LINEグループを作るのはどうか。

事務局君塚 : 連絡手段でLINEを使っている方はいるか。

畠山委員 : 家族など目的別でLINEを使っている。

二宮委員 : 現在、いきいきサポートというグループLINEがあり、明日あなたが運転ですなどの連絡があるが、あれは見ておかないとまずい。必要な事もあり、便利である。

しかし、既読にならないと心配になることもある。

発信側の都合で動く必要があるので煩わしさもある。

佐々木委員 : 日時や場所などの連絡事項だけであれば、とても有難いが意見を言うとなると難しい。

佐久間委員 : 会議で報告事項は不要だと思う。

皆、時間を作って集まっているため、顔を合わせて、声聞いて、話をして、意見が欲しいはずである。

市P連の会議では、雑談がメインであり、報告は端的に行っている。決め事が多いため、グループLINEを使用し、私の方からメンバーへ事前に考えてきて欲しい旨を伝えている。集まった時は基本、意見交換をする時間に充てている。社会教育委員会会議は年5回ある中で、どういう主旨の会議なのかを明確にしないと、資料配布の仕方も次第も変わってくると思う。今日は〇〇について決めたいから意見を下さいと、事前資料に記載し、考えをまとめてきてもらうべきかと思う。そういう会議にしていけないと勿体ない。

佐々木委員 : 社会教育委員会会議は議題があまりない。

決めなければいけないことはわずかである。

報告を受けることは、市で実行した、計画していることの報告であるため、資料だけでは分からない報告もある。

そのため、紙ベースで終わるのも違う気がする。

- 佐久間委員 : 2月の推進大会はまだ先であるが、本日、実施内容の話をも
らい、この部分を改善したら良いとかは既に終わっており、
決定事項であるため、前の段階で話があっても良いと思う。
それが集まる意味ではないか。
意見が反映される訳ではないのであれば、終わってからで良
いと思う。
- 佐々木委員 : 実行委員制度でやりますよと言いながらプランは出来てお
り、そうそう変わらない。そこを言えば、翌年の要望を出せ
る感じだが反映されるとは限らない。
- 事務局川俣 : 推進大会において、委員の意見で何が変わるかと言うと、実
践発表団体が変わる程度かと思う。
前年度の意見を踏まえ今夏は、ある程度考慮していた。
例えば、今回お話に合った事項を実際、反映させる等の大き
な動きは難しいところがある。
- 佐々木委員 : 今まで声をあげられなかったが、あげれば通ることもある。
そのチャンスがなかなか無い。
社会教育委員会議は静かである。
- 事務局君塚 : 一方的に説明して終わりになっている。
- 佐々木委員 : 言葉の多い人は手を挙げて言うが、思っているも黙っていた
部分もあったと思う。
- 佐久間委員 : 黙っていたというよりかは、今、言うタイミングではないと
思っていた。
単に推進大会を変えていきたいとかでなく、会議のあり方と
して、例を挙げただけである。
- 事務局君塚 : 決まった報告はやっていかななくてはならないが、それを短縮
して報告・連絡だけではなく、意見を言えるような内容にし
ていく必要がある。
- 松井委員 : 次回から出来るだけ報告を短くして、改善点等を中心に報告
してもらい、それについてすぐ話し合ってもらおうと来年から
反映されるチャンスがあるということだと思う。
報告を短くするのはすぐ出来ると思う。
- 小泉委員 : 意見が少ないから、報告し続けている感じがある。
私は目的がはっきりしている。
袖ヶ浦市の社会教育の活発化・活性化そのことである。それ
だけ言いたくて社会教育委員なった。それが話をしたい。
- 佐々木委員 : この場だけでなく、直接、TELやメールで思いを伝えても

- 良いのだろうか。
- 事務局川俣 : 小泉委員の意見も分かるが、漠然としている部分もあり、事務局でも資料準備するにも難しく、一人ではできなかつたため、小阪さんや大田さん等、過去を知る方に聞いた経緯もある。もし、何かあれば、逆に持ってきてほしい。資料を探しているが、事務局に投げられただけでは、限界もある。
- 資料を準備しても納得して頂けないのであれば、何のために用意したのかとってしまう。TELでもメールでも構わないので用意してほしい。
- 小泉委員 : 以前の担当には、メモを渡してある。でも、いい。
- 平川委員 : 今回、三学大学をテーマに頂いて、最終的な結論まで至らなかったが、この資料はだいぶ勉強になった。
- 佐々木委員 : 15年前、三学大学のあり方について、こんな一からの資料は無かった。初めてである。
- 成り立ちや思いが分かり、とても有難い。
- 事務局川俣 : 今年度このような場を設けているため、ある程度、方向性はつけたい。どこに着地点を持っていくかだと思いが、16年前の諮問は、出口前市長からの指示事項で三学のあり方について社会教育委員に投げた経緯があった。
- 教育委員会にとって、社会教育委員は重要な位置付けであるが、一社会教育委員の意見で市の事業が大きく方向転換できない部分もある。
- 木曾野委員 : 社会教育委員皆が納得していないといけないと思う。
- 事務局川俣 : 社会教育委員の意見がまとまっている訳でないので、まずは社会教育委員の意見を合わせて欲しいと思う。
- 今後、それを踏まえてどうしていくかである。
- 当時、社会教委員会議は年7回あり、諮問、答申の段取りが踏めたと思う。
- この状況では、今年度中に諮問までもっていけない。
- 佐々木委員 : 以前は、+αでやっていた。
- 二宮委員 : 5回ほど別途やったと思う。
- 事務局川俣 : 少しではあるが、皆様に報酬をお渡ししている以上、臨時会議も仕方がないかもしれない。
- 今後、諮問答申の段取りまでいくのであれば、それも必要だと思う。

- 二宮委員 : 自分たちで、答えていくためには勉強は不可欠だと思っている。当時、今回のような資料はなかったので、自分たちで調べた。三学は袖ヶ浦市社会教育のバックボーンとなるためにはどうすれば良いのか、自分たちの範囲で調べていた。
- 松井委員 : 期間が短い中でみんなの意見をまとめなければいけない。アンケート形式、記述式でも構わないのでこの件についてはどう思うかを集約すると良いと思う。今回の資料を見て、経緯がよく分かった。
- 事務局君塚 : 話に出たことは検討していきたい。また、会議を充実させるためには、持ち帰って話をしたい。三学のことも含め、事前に意見をもらい、当日には意見交換する感じにしたい。
- 中山委員 : 前半の会議に出席していないので分からないが、三学の話はしたのか。どこまで話し合ったのか。
- 事務局川俣 : 初めに、前回の勉強会のことについて資料のとおり説明した。資料に結論は記載しなかったが、私としては、木曾野委員の、「三学がそのまま、公民館にも色々な講座がある。そこへ促す周知が足りない」という意見が良いと思った。小泉委員は、単位制に強くこだわっていたところを、木曾野委員は疑問に思った。しかし、小泉委員は大学のように公民館講座1単位、サークルにも参加するなどのやり方にこだわりがあった。
- 小泉委員 : 違う。なぜ、そういうことをやるのが問題である。だって、それをやらなければ今と変わらない。
- 松井委員 : それを話し出すとまた長くなる。
- 小泉委員 : 中途半端な形でアンケートをとってもダメだと思う。次の会議までに私も資料を作ってくるため、その時に話し合いたい。
- 事務局川俣 : 資料にも記載したが、過去には「特定の市民が受けるサービスは税金の無駄」といった厳しい意見もあった。その辺はどのように考えているのか。
- 小泉委員 : そんなこと言ったら、わんぱくクエストは数人に何百万もかけている。それと同じだ。私が言っているものは何年もやっていけば、どんどん増えていくから良いと私は言っている。
- 事務局君塚 : 三学については、自主的な活動に持っていくような感じで、

- 小泉委員から意見を出してもらうこととなった。
- 事務局川俣 : 過去に講座生制度が失敗したことはご理解いただけましたか。
- 小泉委員 : それは分かる。だから私は言っている。
講座生と今やっている公開講座を合わせてやってくれ。
- 事務局川俣 : 合わせてというのは分かる。
しかし、小泉委員が講座生になり講師選定の際、過去は講師選定に強い口出しがあった。市民三学大学講座の私物化である。その辺は上手くやってほしい。
- 小泉委員 : 講師を決めるのは後の話だ。
そういうものを作るか、作らないのかの問題だ。
- 事務局川俣 : 前回も言っていたが、私は木曾野委員のように現役の子育て世代の方もいるため、特定の高齢者向けの講師を呼ぶことはできないと話をしたと思う。
- 小泉委員 : 後は話し合いをしよう。
- 二宮委員 : 間違いなく、すれ違っている。

ここで、閉会

I はじめに

高齢者が増加し100歳以上の方が珍しくなくなってきた現在、社会教育の分野に該当する人（シニア）も増加している。しかし年金支給年齢の引き上げで60歳では定年にならず、再任用やパートで生計を立ていかなければならなくなり、逆に社会教育に携わる人口は減ってしまっている。そのため公民館の各種のサークルやボランティア団体の参加者が高齢化してしまい、年々廃部など縮小を余儀なくされているのが現状である。そこでこの状況を改善するために市の社会教育を積極的に活性化する方法を打ち出していきたいと思う。具体的には公民館サークルや各種ボランティア活動への参加を増やす方法を目指す。高齢者が週一回ないしは月に一回は公民館などに足を運べるようにしたい。これはあくまで試案であり素案であるので活性化のヒントになればと考えている。

II 試案1

「三学大学の活性化」 → 「プラチナコース」の設置

三学大学は袖ヶ浦市の社会教育の中心であり、長い伝統を持つ特色ある活動である。しかし当初の活動は影を潜め、現在年二回の講演会だけになってしまっている。各種推進大会と合わせての開催で社会教育への入り口としての位置づけがされているが、より積極的に三学大学が、例えばサークルやボランティア活動への参加を促すために有効になるように活性化させたい。

1. 方針

- ・できるだけ、既存のものを使い負担を少なくする。
- ・三学大学講演会は、今まで通りとする。
- ・市内のサークル、ボランティアの参加者増を図る。
- ・少なく無理のない人数からはじめ、仲間づくりを進める。
- ・協働のまちづくりにつなげる。
- ・一年間での既定の単位取得で卒業とする。

2. 目標

「きょうよう」と「きょういく」で錆びず輝き続けるプラチナ人生を目指そう

3. 「プラチナコース」について

- (1) 参加者募集 20～30名
- (2) 学習内容（カリキュラム）
 - ・現在の三学大学の講演会を聞く。
 - ・一年間公民館のサークルに参加し活動する。
 - ・博物館や図書館等の活動に参加する。
 - ・市主催行事に参加する。例、ウォーキングフェスタ、各種推進大会音楽フェスタ、福祉フェスタ、
 - ・各種ボランティア活動に参加する。
 - ・地域活動に参加する。
 - ・定例会（月2回）に参加する。（学習チェックを行う）
- (3) 単位について
 - ※各種団体に理解を求め、参加の確認をしてもらう。
 - ※参加した場合はノートに記入、サインをもらう。
 - ・それぞれの単位は要検討。

- ・合計で卒業単位を取得すれば卒業とする。
 - ・単位の記録は記録ノートに記載する。
- (4) 定例会について
- ・2か月ごとに行い、学習状況をチェックする。
 - ・定例会の会では、市の各部の人たちの協力を得て、講義をしてもらう。
 - 「プラチナ人生のための」～
 - 「袖ヶ浦の歴史」(博物館) 「健康と防災について」()
 - 「協働のまちづくり」(協働) 「袖ヶ浦の施設めぐり」()
 - 「市長さんと語る会」() 「社会教育とボランティア」()
- (5) 年間計画
- 4月 募集開始 カリキュラム公開
 - 5月 入学式 説明会 定例会
 - 6月 定例会
 - 7月 三学大学講演会
 - 8月 定例会
 - 9月 定例会
 - 10月
 - 11月 定例会
 - 12月 定例会
 - 1月 三学大学講演会
 - 2月 定例会 成績確認
 - 3月 卒業式
- (6) 参加者費用
- ・2000円(保険代+謝礼代)
- (7) 学生組織
- ・会長、副会長、会計
 - ・班長、副班長、会計 (5～6人で班を作る)

III 試案2

「各種教室の設置」

公民館のサークルの減少が止まらないが、逆に増やすためには、公民館が講師を呼んで積極的に〇〇教室を開き、参加者が一年間そこで学んだものを元に、サークルづくりをしていく方法をとることが有効であると考えます。

1. 望まれる教室

・ウォーキング教室

月1回県内の公園等に現地集合し講師の説明を聞きながらウォーキングを楽しむ。

・麺打ち教室

月1回そば、うどん、ラーメン、パスタを打って食べる。

・ギター教室

月1回 初心者も含めギターを弾き、最後に合奏する。

・植物観察教室

月1回 公園等を歩きながら、季節の植物の名前と特徴を学ぶ。

・園芸教室

月2回 近くの休耕地を借り、季節の花、野菜を育てる。

※まだたくさんアイデアはあると思うので、出してもらい、実現できるものを各公民館で検討してもらおう。

【資料5】

袖ヶ浦市社会教育活性化試案 3 2024/12/27

小泉 康

はじめに

高齢化が進む現在において高齢者の健康の推進は、本市においても大きな課題であり、スポーツは社会教育の分野に分類されている。そこで本市も100歳体操などが積極的に推進されている。しかし、市民が一か所に集まったの活動には限度がある。そこで、一番取り組みやすいものが一人一人のできるウォーキングだと考える。そして実際にウォーキングを日常的に行っている人は、かなりの数に上っている。そこで、そのウォーキングを生かし、しかも地域の中での市民の交流が少しでもできるようにするために、以下の計画を提案したい。

1. 試案 3

地域「あいさつ道路」の設置

2. 方法

- (1) 各自治体に1km～3kmのウォーキングができるコースを設置する。
- (2) そのコースを地域の「あいさつ道路」に設定しウォーキングするのは、どの時間でもよいが、途中で会う人は、必ず「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」などの挨拶をすることを奨励する。

4. 備考

- ・コースの選定については、できるだけ安全であることとし、更に雑草などの除草をし、環境を良くしておく。
- ・できたら、100mごとに印をしその日どれだけの距離を歩けたのかを各自が記録できるようにしたい。
- ・その日何人とあいさつできたかも記録してもよい。

社会教育事業に関するご意見について（社会教育委員提出分）

2. 今回の小泉委員の提案（別紙）についてご意見をお書きください。

○試案1 方針について

- ・できるだけ、既存のものを使い負担を少なくする。
- ・三学大学講演会は、今まで通りとする。 の2点については賛成です。

意見：年をとっても元気を出して自分の目指す活動に進めば、錆びずに輝き続けるであろう。既存の活動を基に地域住民による人づくり、つながりづくり、地域づくりを大切にし、学習活動支援を果たしていくことが基本理念になります。よって、協働のまちづくりの全体像をつかまなくてはいけないと思います。

方針の1年間の単位取得やその他について、各種団体の理解を図ること等、全て生涯学習課にお任せすることはできませんし、実施は大変な困難、ハードルが想定されます。

○三学大学は予算の関係もありますので、年2回の実施で十分だと思います。

各種事業の設置については、新たに増やすのではなく、現在活動しているサークルや教室に参加しやすい方法を考えることを優先すべきだと思います。たとえば、外出しやすい環境を整備することで、外出による健康増進を目指すために運行しているチョイソコガウラをさらに利用しやすくする等

○高齢者が心身ともに健やかに過ごすことは望むところです。

なぜ高齢者のサークル活動、ボランティアが縮小 解散していくのか？と考えると機会が少ないことではなく意欲があがらないのではないかと思います。小泉委員のいうプラチナコースのような盛りだくさんのカリキュラムにどのような人々が参加したいか？それは高齢者に限ることではないようにおもえます。提案を見てみるとこのような市民大学的カリキュラムに興味を示す方はいるとおもいますが、行政に新規事業としてお願いするのか、自主運営が主体となるのか。自主運営となると続けるには大きなエネルギーがいるでしょう。

今ある各公民館の事業について、年度当初に一覧できる表が作られるとありがたいです。（その表題で参加意欲を掻き立てることが大事ですが）それを元に各自が必要な講座 教室に参加できるようになる。受動的になるか更に発展させていくかは参加者同士の力で。行政は協力していただきたいです。社会教育委員の大きな目標は未来ある青少年の将来を支えることにあると思うので、そのエネルギーは青少年に向けていきたいと思います。

○提案に対する考え方としては総論として賛同します。

試案1については実施可能な案だと思いますので、進めることはできると考えますが、学習内容にサークル活動と並行して定例会（月2回）に参加できることの両立ができるのか疑問に思うところです。制度設計をより具体的に示していただくと理解しやすいと思います。

試案2については、公民館が講師を呼んで教室を開講し1年後にそれら学習修了者によりサークルを形成するような案ですが、公民館職員がそのような活動運営を担うだけの業務的余

裕があるかについては疑問のあるところです。公民館側からのアイデアとして出てくれば実現できると思うものの、なかなか実現化しにくい面もあると思います。

○熱意を持って三学大学の改善を考えていただいているのは理解できる。

生涯学習課から提示していただいたこれまでの経緯がわかる資料からも、新規講座を開設するのは難しいと考える。

各公民館で実施している事業について、さらに多くの人に参加できるような工夫を重ねる方向が良いのではないか。

そのためにも、これまで実施してきた事業の中から人気のあった講座・催しの情報を市内で共有することや

アンケート等で市民の要望を聞くなどして、サークルの活性化につながる試みにつなげていくことが望ましいと思う。

○社会教育の活性化を図る試案として、プラチナコースの設置や新規教室の設置などの提案が示された。しかし、現状において既存予算や人員の制約を踏まえ、現実的な範囲で社会教育を活性化するには無理があると感じられた、既存の活動を有効活用しつつ、市民主体の運営を促進する仕組みが重要です。市民や関係者等と協議を重ねて、「できること」から優先して実行していく段階的なアプローチもが有効と思われます。

なお、試案については、生涯学習課や公民館の職員が「過剰な業務負担」が考えられることから、既存のリソースを再配置し、市民参加型の運営モデルを取り入れることが効果的であり、また、デジタル技術の活用や外部団体との連携を推進することで、業務量を削減しつつ、社会教育の活性化を図ることができると思われます。

○大枠は理解できたので、具体的に実行可能か、どれくらいの効果を見込むかを検討しても良いと思います。

○基本的に小泉委員の提案に賛成します。まず始めることが大事だと思います。

○基本的には試案1のプラチナコースには反対。いきいき教室など、シニア層を対象とした連続講座はすでにあるので、そちらの広報や内容の充実を図ってはどうか。公民館別なので受講者も参加しやすいと思う。プラチナコースについて、サークル活動は自発的活動であり、市の事業としてどこかに参加を呼びかけるのは違うのではないか。ボランティアやまちづくりが盛り上がるのは良いことだと思うが、生涯学習課の範囲ではないので、各課横断の袖ヶ浦市体験講座とか袖ヶ浦市使い倒し講座とか地域デビュー講座とか(センスないですが)新住民や退職して何か活動したいが何から始めたらよいか分からない人のためのきっかけになる連続講座というアイデアは良いと思う。市民協働課あたりで各課調整して開催した方がしくりくるかと。ただ、修了したら「卒業」ではなく「袖ヶ浦市デビュー」するための準備講座という位置付けはどうか。試案2の各種教室については、根形公民館で陶芸教室の修了生でサークルを作ったという方がいたので、ノウハウは各公民館にあると思う。

○提案されている内容は、「シニア世代が社会教育を享受するため、市に〇〇をやってほしい、〇〇な場を作ってほしい。そうすれば参加する。」という考えに感じます。このような受け身

ではなく、シニア世代自らが主体となって運営できる事業を考えたら良いのではと思います。どのような事業ができるか、検討する場（お茶会のような会）を市側は提供し、そこで自ら考えていただく方法とすれば、互いの負担が減らせるのでは。検討の結果、シニア世代が経験や知識を生かして講師としても活躍できる場が生まれるのではと思います。また、シニア世代は経験も知識も豊富にお持ちなので、市が行うプッシュ型の事業は、子どもたち世代へ向けて欲しい。

3. その他、社会教育事業についてご意見がありましたらお書きください。

○現在の厳しい経済事情において、労働人口の高齢化、超高齢化時代の状況を鑑み、改善、活性化を目指すことを期待します。

○袖ヶ浦に転入された新しい住民の方達が参加しやすい企画を検討する。

○袖ヶ浦で行われている様々な事業は長く続けられ意義あるものだと思いますが、流れで行うでなく今一度見直す、原点を思い起こす。そして現状に合っているか、棹さすこと必要だと思います。実行委員会の前にスローガンを検討したり、より良いアイデアを出し合ったり。市民に向けてどんな意義を持ってこの会を開くのかとアピールできるよう。募集～開催～結果報告することで次回に繋げていけるのではないのでしょうか
社会教育委員は各行事の感想を言い合って終わりでもいいのかな？今回小泉委員の長きに渡る発言で勉強会など行えたことは有意義なことだったと思います。わんぱくクエストのあり方など新たな時間を作ることが難しいところもあるでしょうが、事前の意見調整など方法を探って意見は募りたいものです。

○袖ヶ浦市の社会教育は、義務教育世代の学校教育以外の活動に軸足を置きすぎているのではないかと思います。

生産年齢世代や高齢者に対する社会教育の幅を広げている多様なプランを試案することも今後より一層必要とされるのではないかと思慮します。

○事業ではありませんが、会議のあり方について改善は見られますが時間配分を示して効率の良い会議として行きたいと思います。

○高齢者への社会教育事業も大事であるが、今後、中学生の部活動のあり方が変わってくるので、この点も考慮した社会教育事業を考えていかなければならないと思います。

○社会教育事業のテーマとしては、生きていく上で役に立つトピック、「おっ」と思えるものに反響があると感じます。今は普通に生活するだけでも辛い時代で、働く世代は年金もなくなる可能性もあり、子どもたちはもちろん、自分自身の将来にも備える必要があります。社会教育事業に参加して「生きがい」を感じることは素晴らしいことですが、その前に生きていないといけない。社会教育の入口として、生きるためのヒントとなるテーマを探れると、参加する人も増えるのではと思います。

市P連では、8月に教育懇談会を開催しました。今年度の活動テーマ、「生きていくこと、暮らしていくこと」に沿った内容とし、『知っておきたい、お金の話』として投資について私がお話しました。現在の高校の教育課程には、金融教育が盛り込まれています。今の子どもたちは資産運用について学ぶ機会があり、実践していく世代です。私たち親世代もこれについて正しく知っている必要がありますよね、という内容としましたが、参加された保護者も興味深く聞いてくれました。夏の暑い時期、休日に足を運んでいただきましたが、面白かったと言ってくれる方も多く、やはり参加者の満足度は内容次第だと感じました。これがそのまま社会教育事業に当てはめられるわけではありませんが、各事業も前年踏襲の姿勢で臨んでしまうと、魅力が半減してしまうように思います。毎回の会議も報告会という形式とせず、委員と事務局と一緒にブレインストーミングができれば、良い事業が生まれるようにも思います。前回の会議では会議の運営方法を見直されていることを感じました。引き続き、宜しくお願いします。

報告・連絡（1）

袖ヶ浦市生涯学習特別奨励賞 受賞者名簿

令和6年中に文化・スポーツ等で特に顕著な功績のあった個人・団体に授与します

（1）個人の部【10名：文化1名 スポーツ9名】

NO.	しめい 氏名	所属 推薦団体等	大会名称及び成績等	種別
1	たきぐち えいと 滝口 瑛士	袖ヶ浦市立昭和中学校 (受賞時昭和小学校)	第27回図書館を使った調べる学習コンクール 調べる学習部門 小学生の部 高学年 文部科学大臣賞 『消えたマアジを大捜査!!～環境DNAからマアジの痕跡を見つけ出せ～』	文化
2	しおや やすし 塩谷 靖	スポーツウエルネス吹矢 海ほたる木更津支部	第13回全日本スポーツウエルネス吹矢選手権大会 6m男子の部 準優勝	スポーツ
3	きどう ひめか 佐藤 姫夏	市進ホールディングス	SAGA2024（第78回国民スポーツ大会） トライアスロン競技 成年女子 第3位	スポーツ
4	いまげき そうた 今関 奏太	志学館高等部	令和6年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会 第51回全国高等学校少林寺拳法大会 男子単独演武の部 第3位	スポーツ
5	はなた あやね 花田 彩音	志学館高等部	令和6年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会 第51回全国高等学校少林寺拳法大会 女子団体演武の部 第3位	スポーツ
6	あらい ゆづき 荒井 結月	志学館高等部	令和6年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会 第51回全国高等学校少林寺拳法大会 女子団体演武の部 第3位	スポーツ
7	はら たくと 原 拓翔	バルドラール浦安	・JFA第11回全日本U-18フットサル選手権大会 準優勝 ・U-18フットサル日本代表選出	スポーツ
8	たかやま たくと 高山 拓翔	市原ポニー ベースボールクラブ	・エス・プランナーカップ 第8回全日本選抜中学硬式野球大会 第3位 ・マルハングループインビテーション 大倉カップ 第50回全日本選手権大会 第3位	スポーツ
9	さいとう れんじ 齋藤 蓮士	市原ポニー ベースボールクラブ	・エス・プランナーカップ 第8回全日本選抜中学硬式野球大会 第3位 ・マルハングループインビテーション 大倉カップ 第50回全日本選手権大会 第3位	スポーツ
10	たかうら いぶき 高浦 維吹	袖ヶ浦市立昭和中学校	・IMGA世界ジュニアゴルフ選手権 13-14歳の部男子 第4位 ・PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 東日本決勝大会 13-14歳の部男子 優勝	スポーツ

（2）団体の部【1団体：スポーツ1団体】

NO.	だんたいめい 団体名	所属 推薦団体等	大会名称及び成績等	種別
1	だいいめ 2代目ZERO	2代目ZERO	2024インディアカフェスティバル 第19回全日本インディアカトーナメント大会 男女混合の部 優勝	スポーツ

(1) 個人の部【59名：文化3名 スポーツ56名】

NO.	しめい 氏名	所属 推薦団体等	大会名称及び成績等	種別
1	あきもと はる 秋元 巴瑠	袖ヶ浦市立蔵波小学校	令和6年度千葉県歯・口の健康啓発標語コンクール 千葉県歯科医師会長賞 『おいしいを 感じ続ける 強い歯に』	文化
2	なかはら みさき 中原 美咲	袖ヶ浦市立奈良輪小学校	千葉県児童生徒・教職員科学作品展 第73回科学工夫作品の部 千葉県総合教育センター所長賞	文化
3	しのだ そうし 篠田 漱志	袖ヶ浦市立昭和小学校	・第14回日本パッサコンクール全国大会 小学1・2年 A部門 金賞 ・全国こどもピアノコンクール全国大会2024 小学3年生部門 金賞	文化
4	ふじひら たいち 藤平 泰地	袖ヶ浦市スポーツ協会 ボクシング専門部	第74回千葉県民スポーツ大会ボクシング競技 バンダム級 第1位	スポーツ
5	よしだ ひまり 吉田 妃莉	木更津総合高等学校	第106回全国高等学校野球選手権千葉大会 優勝	スポーツ
6	さとう りゅうご 佐藤 竜悟	翔凩高等学校	第77回千葉県高等学校総合体育大会 剣道 男子団体の部 第3位	スポーツ
7	やなぎさわ あおい 柳澤 碧泉	八千代松陰高等学校	・男子第77回 関東高等学校駅伝競走大会 南関東男子 第3位 【第6区出場】 ・第77回千葉県高等学校総合体育大会陸上競技大会 男子3000mSC 第2位 記録：9分9秒22	スポーツ
8	あんどう りいな 安藤 璃衣那	桜林高等学校	第77回千葉県高等学校総合体育大会 少林寺拳法大会 女子組演武の部 第2位	スポーツ
9	あんざい ひな 安西 陽菜	木更津工業高等専門学校	令和6年度関東信越地区高等専門学校体育大会 バドミントン競技 女子ダブルス 第3位 女子シングルス 第3位	スポーツ
10	まつもと さくら 松本 咲空	木更津工業高等専門学校	令和6年度関東信越地区高等専門学校体育大会 テニス競技 女子ダブルス 第1位	スポーツ
11	あだち ゆい 足達 結依	袖ヶ浦市立昭和中学校	第78回千葉県中学校総合体育大会 陸上競技の部 共通女子800m 第3位 記録2分18秒06	スポーツ
12	うすい おうき 臼井 碧輝	袖ヶ浦市立長浦中学校	第78回千葉県中学校総合体育大会 卓球の部 男子ダブルス 優勝	スポーツ
13	いたくら せな 板倉 世和	袖ヶ浦市立長浦中学校	第78回千葉県中学校総合体育大会 卓球の部 男子ダブルス 優勝	スポーツ
14	すずき ゆな 鈴木 結心	千葉明德中学校	・令和6年度千葉県中学校新人体育大会 剣道の部 女子団体 準優勝 女子個人 第3位 ・第78回千葉県中学校総合体育大会 剣道の部 女子団体 第3位	スポーツ

NO.	しめい 氏名	所属 推薦団体等	大会名称及び成績等	種別
15	えさき りゅうと 江崎 龍斗	袖ヶ浦市立昭和中学校 (受賞時奈良輪小学校)	千葉県春季小学生団体戦 ソフトテニス 男子 準優勝	スポーツ
16	おおき よう 大木 耀	袖ヶ浦長浦 スポーツ少年団	2024年少林寺拳法千葉県大会 小学生単独演武 初段～3級の部 第2位	スポーツ
17	おかがわ けいと 岡川 恵士	袖ヶ浦長浦 スポーツ少年団	2024年少林寺拳法千葉県大会 小学生単独 4～6級の部 第3位	スポーツ
18	わたなべ いおり 渡辺 伊織	合気道蒼龍	第12回市原市合気道演武大会 少年の部 少年敢闘演武賞	スポーツ
19	ひらの ゆい 平野 唯	合気道蒼龍	第12回市原市合気道演武大会 少年の部 少年優秀演武賞	スポーツ
20	ゆだ あやみ 湯田 彩幸	袖ヶ浦市立蔵波小学校	第20回若潮旗争奪千葉県小学生剣道大会 女子の部 優勝	スポーツ
21	なでやま はると 撫山 晴音	袖ヶ浦市立蔵波小学校	第28回極真空手道 千葉県ジュニア選手権大会 小学5年生 軽量級 準優勝	スポーツ
22	しまだ つむぎ 島田 紬	袖ヶ浦市立長浦小学校	第49回千葉県空手道選手権大会 小学2年生 女子 形の部 第3位	スポーツ
23	よしおか こはる 善岡 心遥	市原ジュニア	令和6年度 全国小学生ソフトテニス大会千葉県予選会 ダブルス女子 4年生以下の部 優勝	スポーツ
24	ふじやま ようせい 藤山 陽成	アイ・ユー	・TOKYO OPEN2025 第77回東京卓球選手権大会 ホープス・カブの部 千葉県予選会 カブ男子シングルス 第2位 ・令和6年度関東ホープス卓球大会千葉県予選会 カブ男子シングルス 第2位	スポーツ
25	ふじやま ゆうだい 藤山 悠大	アイ・ユー	令和6年度関東ホープス卓球大会千葉県予選会 カブ男子シングルス 第3位	スポーツ
26	やまだ りいな 山田 莉愛	袖ヶ浦市立長浦小学校	・令和6年度関東ホープス卓球大会千葉県予選会 バンビ女子シングルス 第1位 ・全農杯 2024年全国日本卓球選手権大会千葉県予選会 バンビ女子シングルス 第2位	スポーツ
27	ひがし げん 東 弦	黒川道場	第24回千葉県少年少女空手道選手権大会 2年生男子組手 第3位	スポーツ
28	おおしま さち 大島 佐智	千葉県立 千葉女子高等学校	第50回千葉県なぎなた大会 演技競技 高校生の部 第3位	スポーツ
29	かわみつ ひな 川満 陽菜	袖ヶ浦市スポーツ協会 なぎなた専門部	第50回千葉県なぎなた大会 演技競技 小・中学生 上級の部 優勝 試合競技 女子中学生の部 第2位	スポーツ
30	たかの ともか 高野 友加	袖ヶ浦市スポーツ協会 なぎなた専門部	第50回千葉県なぎなた大会 試合競技 女子中学生の部 優勝 演技競技 小・中学生 中級の部 第3位	スポーツ

NO.	しめい 氏名	所属 推薦団体等	大会名称及び成績等	種別
31	さくらい みみ 櫻井 美海	袖ヶ浦市スポーツ協会 なぎなた専門部	第50回千葉県なぎなた大会 試合競技 女子中学生の部 第3位	スポーツ
32	さたけ さき 佐竹 紗季	袖ヶ浦市スポーツ協会 なぎなた専門部	第50回千葉県なぎなた大会 演技競技 小・中学生 中級の部 第3位	スポーツ
33	さくま ゆの 佐久間 優乃	Realize バレーボールクラブ	2024年度 千葉県ジュニアヤングフェスティバル U14女子の部 準優勝	スポーツ
34	まつやま ちなつ 松山 千夏	Realize バレーボールクラブ	2024年度 千葉県ジュニアヤングフェスティバル U14女子の部 準優勝	スポーツ
35	やまぐち りあ 山口 莉亜	Realize バレーボールクラブ	2024年度 千葉県ジュニアヤングフェスティバル U14女子の部 準優勝	スポーツ
36	いとう なつ 伊藤 夏乃	Realize バレーボールクラブ	2024年度 千葉県ジュニアヤングフェスティバル U14女子の部 準優勝	スポーツ
37	さたけ ゆな 佐竹 優凧	Realize バレーボールクラブ	2024年度 千葉県ジュニアヤングフェスティバル U14女子の部 準優勝	スポーツ
38	おがた まいか 緒形 莓香	Realize バレーボールクラブ	2024年度 千葉県ジュニアヤングフェスティバル U14女子の部 準優勝	スポーツ
39	こいけ かお 小池 華央	Realize バレーボールクラブ	2024年度 千葉県ジュニアヤングフェスティバル U14女子の部 準優勝	スポーツ
40	こばやし るか 小林 瑠華	ダンススクール TWINKLE MOON	全国7人制ダンスコンテスト2024 前期全国大会 小学生部門 第3位	スポーツ
41	ねぎし よしの 根岸 佳乃	ダンススクール TWINKLE MOON	全国7人制ダンスコンテスト2024 前期全国大会 小学生部門 第3位	スポーツ
42	あらや ひなの 荒谷 日菜乃	ダンススクール TWINKLE MOON	全国7人制ダンスコンテスト2024 前期全国大会 小学生部門 第3位	スポーツ
43	わたなべ りお 渡邊 梨緒	ダンススクール TWINKLE MOON	全国7人制ダンスコンテスト2024 前期全国大会 小学生部門 第3位	スポーツ
44	あさい えな 浅井 咲奈	ダンススクール TWINKLE MOON	全国7人制ダンスコンテスト2024 前期全国大会 小学生部門 第3位	スポーツ
45	きょうづか さわ 経塚 紗和	ダンススクール TWINKLE MOON	全国7人制ダンスコンテスト2024 前期全国大会 小学生部門 第3位	スポーツ
46	つしま ゆめ 對馬 柚芽	ダンススクール TWINKLE MOON	全国ダンスコンテスト2024 全国決勝大会 かわいい部門 優勝	スポーツ
47	くわはら じょうたろう 桑原 丈太郎	房総ローヴァーズ 木更津FC	ZOZOCUP第39回千葉県 U-10サッカー選手権大会 第3位	スポーツ
48	おがわ ゆうま 小川 侑真	房総ローヴァーズ 木更津FC	ZOZOCUP第39回千葉県 U-10サッカー選手権大会 第3位	スポーツ
49	うらかわ ゆうと 浦川 悠翔	房総ローヴァーズ 木更津FC	ZOZOCUP第39回千葉県 U-10サッカー選手権大会 第3位	スポーツ

NO.	しめい 氏名	所属 推薦団体等	大会名称及び成績等	種別
50	あきもと つばさ 秋元 翼	IGNITION	第38回千葉県少年少女レスリング選手権大会 3・4年28kg級第1位	スポーツ
51	まつえだ けんせい 松枝 建成	IGNITION	・第1回東日本少年少女レスリング選抜大会 小学2年生の部26～28kg級優勝 ・第38回千葉県少年少女レスリング選手権大会 1・2年26kg級第3位	スポーツ
52	あきもと あん 秋元 杏	IGNITION	・第38回千葉県少年少女レスリング選手権大会 1・2年22kg級第1位 ・第38回東日本少年少女レスリング選手権大会 小学1・2年の部22kg級優勝 ・第1回東日本少年少女レスリング選抜大会 小学2年生の部20～22kg級優勝	スポーツ
53	みその こはる 御園 心春	IGNITION	第1回東日本少年少女レスリング選抜大会 小学2年生の部24～25kg級RED準優勝	スポーツ
54	おおさわ いぶき 大澤 昴季	IGNITION	第1回東日本少年少女レスリング選抜大会 小学2年生の部24～26kg級優勝	スポーツ
55	あづま ゆうひ 我妻 優妃	IGNITION	第38回千葉県少年少女レスリング選手権大会 1・2年20kg級第2位	スポーツ
56	こみどり じゅんぺい 小翠 純平	IGNITION	第1回東日本少年少女レスリング選抜大会 幼年年長の部19～20kg級BLUE優勝	スポーツ
57	さとう りりな 佐藤 吏々那	IGNITION	・第38回千葉県少年少女レスリング選手権大会 幼年19kg級第1位 ・第1回東日本少年少女レスリング選抜大会 幼年年長の部17～19kg級優勝 ・第38回東日本少年少女レスリング選手権大会 幼年の部18kg級第3位	スポーツ
58	あまの かなみ 天野 叶望	IGNITION	・第38回千葉県少年少女レスリング選手権大会 幼年+21kg級第1位 ・第38回東日本少年少女レスリング選手権大会 幼年の部22kg以上級優勝 ・第1回東日本少年少女レスリング選抜大会 幼年年長の部22～24kg級優勝	スポーツ
59	さいとう じん 齋藤 迅	IGNITION	第1回東日本少年少女レスリング選抜大会 幼年年少の部16～18kg級優勝	スポーツ

(2) 団体の部【3団体：スポーツ3団体】

NO.	だんたいめい 団体名	所属 推薦団体等	大会名称及び成績等	種別
1	そでがうらしどうめき 袖ヶ浦市百目木 Bチーム	袖ヶ浦市子ども会 育成会連絡協議会	第32回房総子どもかるた千葉県大会 団体低学年の部 準優勝	文化
2	がんばれベガーズ	袖ヶ浦市スポーツ協会 野球専門部	第46回東日本軟式野球(2部)千葉県大会 ベスト4	スポーツ
3	ちばけんりつ 千葉県立 そでがうらこうとうがっこう 袖ヶ浦高等学校 しんたいそうぶ 新体操部	千葉県立 袖ヶ浦高等学校	令和6年度関東高等学校体操競技・新体操大会 第73回関東高等学校体操競技・新体操選手権大会 男子団体 第3位 得点11.850	スポーツ

報告（２）令和７年度社会教育委員の年間活動計画（案）について

（１）定例会

回	実施日	会議内容	会場
1	5月23日(金) 15:00～17:00	令和7年度袖ヶ浦市社会教育関係団体連絡協議会活動費助成金について 令和6年度社会教育（体育）事業の実施報告について 令和7年度袖ヶ浦市教育基本方針及び目標について	長浦交流センター1階多目的室
2	7月11日(金) 15:00～17:00	令和8年袖ヶ浦市二十歳を祝う会実行委員の選出について 令和7年度事業について	市役所北庁舎 3階中会議室
3	10月3日(金) 15:00～17:00	第41回袖ヶ浦市生涯学習推進大会について 第41回袖ヶ浦市生涯学習推進大会実行委員の選出について	市役所北庁舎 3階中会議室 または 根形交流センター講義研修室
4	12月5日(金) 15:00～17:00	第41回袖ヶ浦市生涯学習推進大会について 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会について 令和7年度君津地方社会教育推進大会について	市役所北庁舎 3階中会議室 または 平岡交流センター2階会議室
5	2月6日(金) 15:00～17:00	令和8年度社会教育委員年間活動計画（案）について 令和7年度君津地方社会教育推進大会の結果報告について	市民会館3階 中ホール

（２）各種大会・研修会等

回	実施日	会議等名称	参加対象	会場
1	5月16日(金)	君津地方社会教育委員連絡協議会総会	5人	袖ヶ浦市民会館
2	7月5日(土)	袖ヶ浦市青少年健全育成推進大会	全員	袖ヶ浦市民会館
3	7月 日()	千葉県社会教育委員会連絡協議会代議員会	委員長	千葉県総合教育センター
4	9～10月頃	君津地方社会教育委員連絡協議会研修会	数名	未定
5	”	社会人権教育地区別研修会	数名	未定
6	11月21日(金)	関東甲信越静社会教育振興大会神奈川大会	5人	横浜市
7	月 日()	千葉県社会教育振興大会	5人	千葉県総合教育センター
8	1月11日(日)	袖ヶ浦市二十歳を祝う会	数名	市民会館及び各交流センター
9	1月 日()	君津地方社会教育推進大会	全員	未定
10	2月14日(土)	袖ヶ浦市生涯学習推進大会	全員	袖ヶ浦市民会館

（注）（１）（２）とも令和7年1月現在の予定であり、日程等を変更する場合があります。

（３）勉強会

社会教育委員会議の前後の時間を用いて勉強会を実施する。テーマを決めての意見交換や先進事例の研究など、社会教育委員活動に活かせる内容を考えながら実施する。

報告・連絡（3）各種事業の実施結果について

令和7年袖ヶ浦市二十歳を祝う会実施結果

「生まれ育った郷土に感謝し、社会の一員として力強く生きる気持ちを持つ」という目標を掲げ、袖ヶ浦市二十歳を祝う会を開催した。市民会館・長浦交流センター・根形交流センター・平岡交流センターの4会場に分かれて実施した結果は下記のとおりである。

1. 実施状況

昭和・蔵波・根形・平川地区は1月12日（日）午前9時30分から受付、10時30分から式典。長浦は午後0時45分から受付、午後1時30分から式典。式典終了後は、それぞれの会場で記念撮影やビデオレターなどの記念行事を実施し終了した。

2. 式典出席者

地 区	対 象 者			出 席 者			出席率 %	前回(R6) 出席率%
	男	女	計	男	女	計		
昭和地区	134	82	216	88(13)	58(3)	146(16)	67.6	70.6
長浦地区	56	54	110	43(9)	38(3)	81(12)	73.6	70.4
蔵波地区	104	69	173	84(14)	54(2)	138(16)	79.8	68.0
根形地区	28	27	55	21(3)	23(2)	44(5)	80.0	82.1
平川地区	38	49	87	30(5)	40(7)	70(12)	80.5	80.0
計	360	281	641	266(44)	213(17)	479(61)	74.7	72.1

*対象者は、11月1日時点で住民登録を有する者と、事前に出席の申込みのあった市外転出者の合算とした

*出席者のカッコ内は市外転出者の出席数で内数

5年間の推移

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
対象者数(人)	678	665	626	637	637
出席者数(人)	484	318	480	471	459
出席率(%)	71.4	47.8	76.7	73.9	72.1

* 令和3年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により式典を中止した。

* 令和3年の対象者数は、令和2年11月27日現在、住民登録されている対象者の人数を示す。出席者数は、撮影スポットの利用者数を示す。

3. 記念行事

各館で行われた記念行事の内容は次のとおりである。

【昭和地区】

会 場 市民会館
内 容 記念写真撮影、恩師からのメッセージ、スライドショー

【長浦地区】

会 場 長浦交流センター
内 容 記念写真撮影、恩師からのビデオレター

【蔵波地区】

会 場 長浦交流センター
内 容 記念写真撮影

【根形地区】

会 場 根形交流センター
内 容 記念写真撮影、恩師からのビデオレター

【平川地区】

会 場 平岡交流センター
内 容 記念写真撮影、恩師からのビデオレター

4. その他の参加者

地 区	来 賓 (実行委員は除く)	実行委員	職 員 (実行委員は除く)	そ の 他	計
昭和地区	19	7	3	6	35
長浦地区	6	7	4	24	41
蔵波地区	10	6	4	24	44
根形地区	6	8	2	8	24
平川地区	9	18	5	15	47
計	50	46	18	77	191

※ 来賓には案内者（主催者）を含む。

※ 実行委員には、二十歳の者を含まない。

※ その他は、社会教育推進員、青少年相談員などの会場設営協力者

5. 記念品

二十歳を祝う会担当者会議での検討の結果、ガウライラスト入り多機能ボールペンに決定し、当日に配付を行った。

6. まとめ（目標に対する結果）

「生まれ育った郷土に感謝し、社会の一員として力強く生きる気持ちを持つ」という目標に対する結果は下記のとおりである。

【昭和地区】

受付自体は、滞りなく行うことができたが、ロビーやホワイエで参加者が談笑し、混雑したため、適宜、大ホールへの誘導のアナウンスを行った。

式典は、二十歳代表による進行のもと厳粛な雰囲気の中、実施できた。二十歳代表挨拶では、家族や友人への感謝とこれから周囲の人とのつながりを大切にしながらどのような状況にも向き合っていきたいと決意が語られた。

記念行事は、大ホールにおいて、二十歳代表による企画と運営のもと小学校及び中学校時代の恩師の登壇及びスライドショーを行った。恩師の方々がステージでお祝いのメッセージを伝えると和やかな雰囲気に包まれた。その後のスライドショーでは、思い出の場面を投影し、当時を振り返りながら懐かしむ会話が飛び交った。

また、青少年相談員昭和支部が設置した撮影用パネルは、天候が不安定だったためホワイエ内に設置した。本人及びそのご家族が笑顔で撮影している姿がとても印象に残った。

【長浦地区】

社会教育推進員や個人ボランティアの協力もあり、受付から開式までスムーズに行うことができた。駐車場では青少年相談員の協力によりスムーズに滞りなく誘導が行われた。

開式前には隣席の方と談笑する姿が見られたが、開式後は私語もなく式は粛々と進み、社会の一員としての自覚がうかがえた。また、二十歳代表挨拶は、多くの人に支えられた感謝の気持ちと、責任と向上心を持って歩んでいく決意が語られ、心に響くものであった。

記念行事では、お世話になった恩師からのビデオレターを上映し、当時の思い出や二十歳へのお祝いの言葉があり、温かく和やかな雰囲気に包まれた。

【蔵波地区】

社会教育推進員や個人ボランティアの協力により、全体人数が多いものの開式前には全員会場に入って着席し、式典は厳かに進んだ。

二十歳代表挨拶では高校受験期の経験から、「人のために優しさを届けられる人間になりたい」という思いについて語られるなど、温かみのある挨拶であった。

同窓会で時間をかけて恩師からのビデオレターを行うため、記念行事は記念写真撮影のみ行った。天候不順のため屋内に設置した撮影用パネルは好評で、開式前にも撮影する方が多く、閉式後は退出がスムーズに行われた。全体的に落ち着いた式であった。

【根形地区】

受付は社会教育推進員等の協力もあり、スムーズに行うことができた。

式典全体については、静かに主催者挨拶などを聴いており、厳粛な式となった。二十歳代表挨拶は地域への感謝が伝わるものであり、式典中の新成人の姿に保護者等は成長を強く実感されたと思う。式典終了後、会場内で根形地区にゆかりのある若者が企画・運営を行っている「ねこまる」の活動紹介を行った。“成人式の縁”で始まったねこまるの活動に関心を持つことを期待する。

記念行事では、出席いただいた恩師からの祝辞、中学校の卒業の記録ビデオを流し、交流会および集合写真の撮影を行った。

また、青少年相談員の協力により、例年の撮影用スポット設置に加えて今年はガウラとソデリーが登場し、笑顔で撮影している姿がとても印象に残った。

第2回実行委員会会議を当日に行い、実行委員から全体的にスムーズな進行や式典などでの態度に対する賞賛が多くあった。全体として、二十歳を祝う会実行委員の準備や当日の行動は好評であり、地域ぐるみ、根形のあたたかさを感じる二十歳を祝う会となった。

【平川地区】

平川交流センター体育室が雨漏りのため、平岡交流センター多目的ホールで開催した。式典では、進行や二十歳代表挨拶などを担当した実行委員がそれぞれの役割を立派に果たし、厳粛な雰囲気の中で進めることができた。

記念行事はビデオレターと記念写真撮影を行った。ビデオレターは恩師の先生からのメッセージを上映した。恩師の方々からは、学生時代の思い出や将来への励まし等様々なメッセージが寄せられた。

記念写真撮影は、移動の順番を整理し、女性のストールや手荷物置き場を設け、スムーズに撮影を行うことができた。

記念写真撮影終了後の退場も、出口に用意した記念品を受け取ってから出るように誘導し、滞りなく行うことができた。

青少年相談員より提供いただいた撮影用パネルについては、雨のため屋外から屋内に予定を変更し、多目的ホール後方に1枚と1階ロビーに2枚の計3枚を設置した。多くの方の利用があり好評であった。

多くの家族の皆様や地域の方々に見守られながら、厳かな式典と若者らしい希望溢れる記念行事ができた。



参加費
100円

第29回



ふれあい



フェスティバル

ウォーク&トライ、パフォーマー鑑賞、ビンゴ大会など盛りだくさんのイベントをご用意していて、お昼には豚汁を配布します。

友達・家族での参加をお待ちしています！

R7.2.16日

申込〆切
2/7(金)

9:30-15:00(受付:9:00)



◎ 会場

袖ヶ浦公園・根形交流センター【受付】
(根形公民館)

☂ 雨天中止

ウォーク&トライ
10:15-12:15

120分以内で袖ヶ浦公園内のクイズとトライポイントに挑戦します！

パフォーマンス
13:15-13:45

誰が来るかはお楽しみ…
楽しいパフォーマンスを約束します！

ビンゴ大会
14:00-14:30

全員でビンゴ大会を行います！
参加して豪華景品をゲットしよう♪

主催 | 袖ヶ浦市青少年相談員連絡協議会

申込み ①二次元コードから申込み
②裏面申込書を記入し各学校・各交流センターに提出



申込フォーム

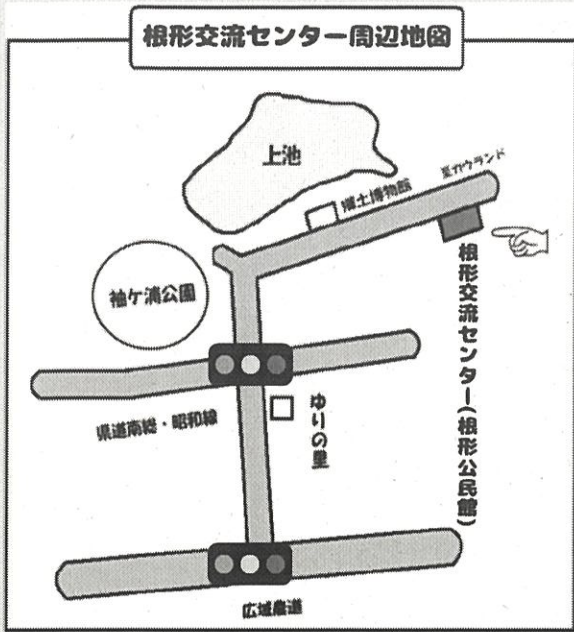
お問合せ

教育委員会生涯学習課
☎ 0438-62-3743
✉ sode30@city.sodegaura.chiba.jp
根形交流センター(当日8時以降)
☎ 0438-62-6161

市HP



中止連絡 | 開催中止の場合は右記袖ヶ浦市HPでお知らせします。



- 日 時：令和7年2月16日（日）※雨天中止
 当日のスケジュール
 9：00～9：30 受付時間
 9：30～10：15 開会式・競技説明
 10：15～12：15 ウォーク&トライ
 12：15～13：15 昼休み（豚汁配布）
 13：15～13：45 パフォーマンス
 14：00～14：30 ビンゴ大会
 14：30～15：00 表彰式・閉会式

- 対 象：袖ヶ浦市に住む小学生とその家族
 ※家族、友達同士の2～4人チームでの参加になります。
 ※就学前の幼児が参加する場合は保護者同伴になります。
 ○持ち物：※昼食・飲み物・筆記用具
 ※昼食を各自持参ください。
 ○駐車場：根形交流センター敷地内にあります。

ウォーク&トライとは？

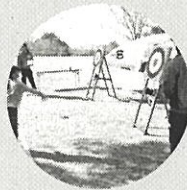
根形交流センターから袖ヶ浦公園に移動し、120分以内にクイズと9つのトライポイント種目にチームで挑戦するゲームです。さらに園内に隠れたスタンプを集めると得点アップ！

お問い合わせ | 教育委員会生涯学習課
 ☎ 0438-62-3743
 ✉ sode30@city.sodegaura.chiba.jp
 根形交流センター（当日8時以降）
 ☎ 0438-62-6161

中止連絡 | 開催中止の場合は袖ヶ浦市HPでお知らせします。
 市HP



アックススロー カチカチカウンター ビンボン玉遠投



わりばしヒューストン



的あて



ベアリングキャッチ



運命のサイコロ



グラウンドゴルフ



10秒ストップウォッチ止め



切り取り線

チーム名			参加人数	人
ふりがな			学校名	小学校
代表者氏名				
代表者住所	〒			
代表者TEL	・自宅	—	・携帯	—
ふりがな				
メンバー氏名 (代表者を除く)				

○当日の写真を広報活動に使用場合があります。不都合がある場合はご相談ください。申込期限：令和7年2月7日（金）

募集概要

募集定員・募集期間

- 募集定員
先着1, 200名
- 募集期間
2025年1/14 (火) ~1/31 (金)

抽選会賞品

- 抽選会賞品
袖ヶ浦市特産物等

参加資格

- どなたでも参加できますが、以下に注意してください。
- ・ペット同伴不可
 - ・未就学児及び小学生は保護者同伴
 - ・ベビーカーご使用のお客様は、ショートコースをご利用ください。

参加費

- ・一般(中学生以上) 400円
- ・市外総合型地域スポーツクラブ会員 400円
- ・小学生 200円
- ・未就学児及び市内総合型地域スポーツクラブ会員 無料

- 参加費は当日受付にて徴収となります。
- 車で来場された方は、駐車料金別途1, 000円かかります。

自然探検イベント (無料)

たんけんルーパーを使って自然を観察しよう！

- 対象
未就学児~小学生 (保護者同伴)
- 申し込み
当日、受付にてお申し込み下さい。

アクセス

袖ヶ浦市HPからご確認ください。

ホームページ

総合型地域スポーツクラブに興味のある方は、ご覧ください。

袖ヶ浦市 総合型地域スポーツクラブ

ウォーキングフェスタHPを、ご覧になりたい方はこちらから。

袖ヶ浦市 ウォーキングフェスタ

入園について (重要)

○事前に参加者 (代表者) に入場許可証を郵送いたします。ゲートで入場許可証を提示いただくと、駐車場代1, 000円で駐車できます。忘れた場合は、正規の入園料・駐車料金をお支払いいただきます。

○駐在所の指定はございません。○路線バス、徒歩、自転車、バイクでご来場の方は、役員の案内に従ってご入園下さい。



東京ドイツ村会場

ウォーキングフェスタ2025 IN袖ヶ浦

ショートコース
(約4km)
ロングコース
(約8km)

3/9(日)

定員先着1, 200名
申込期間1/14~1/31

夜はそのまま
イルミネーションへ！

申込みは下記QRまたは裏面
申込方法参照



ウォーキングの後は、家族でゆっくり過ごしました。抽選で特産品もGETできました。

自然探検イベント
実施します (詳細裏面)

お問い合わせ

袖ヶ浦市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
事務局 (袖ヶ浦市教育委員会)
TEL: 0438-62-3791
FAX: 0438-63-9680
MAIL: sode31@city.sodegaura.chiba.jp

主催: 袖ヶ浦市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
共催: 袖ヶ浦市教育委員会
後援: 袖ヶ浦市観光協会、東京ドイツ村
協力: 袖ヶ浦市スポーツ推進委員協議会
袖ヶ浦生涯スポーツ公認指導員会
ZERO FIGHTERS (社会人アメリカンフットボールチーム)



ロングコース (約8 km) ※内周

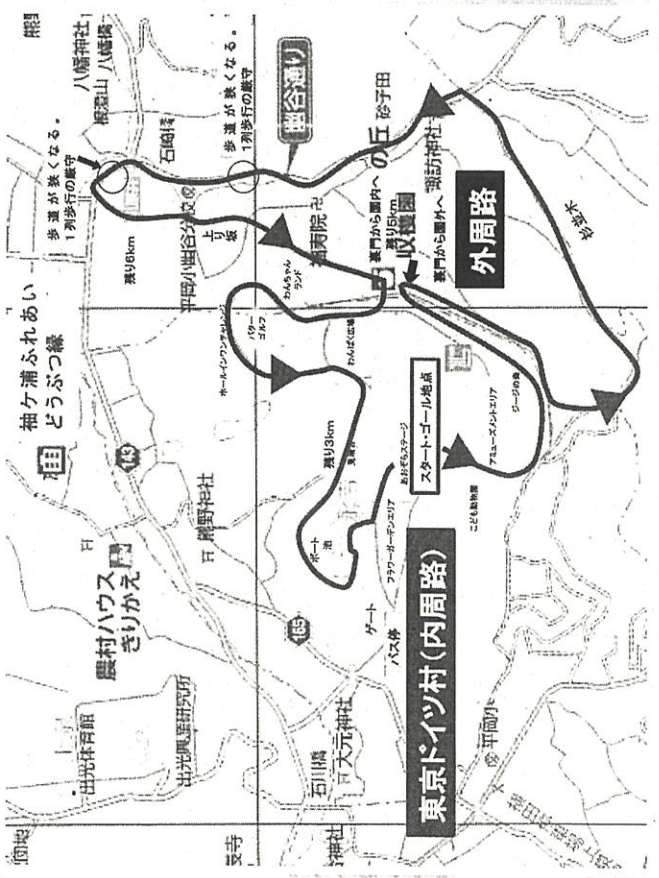


ショートコース (約4 km)

トイレ

- 【園内コース上のトイレ】
- ・スポーツランド
 - ・こども動物園

- 【園外コース上のトイレ】
- ・元幽谷分校体育館



ロングコース (約8 km) ※外周

保険について

事故が発生した場合は、主催者加入の保険の補償の範囲内で対処させていただきます。ただし、コース外の歩行や役員の指示に従わなかった場合は補償適用外となります。

実施の有無 (小雨決行)

実施の有無については、右記QRコードからご確認ください。



持ち物

飲み物、必要に応じて雨具等

本チラシ (コースマップ) をご持参ください。追加配布はございません。

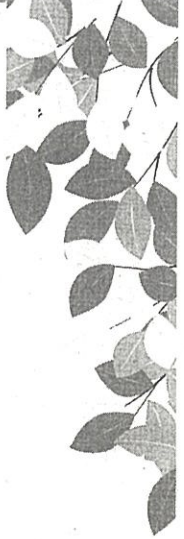
その他

ウォーキング中の喫煙はご遠慮ください。

スケジュール

当日はドイツ村9:30開門となります。

ショートコース (約4 km)	ロングコース (約8 km)
受付	9:40
開会式	10:20
スタート	10:40
ゴール	先頭11:50 最後尾12:20
	先頭13:00 最後尾14:20





袖ヶ浦市立図書館からのお知らせ

電車内やご自宅で

いつでも どこでも 話題の本を
袖ヶ浦市電子図書館

袖ヶ浦市内在住・在勤・在学で
利用券をお持ちの方は
すぐにご利用いただけます！



電子図書館

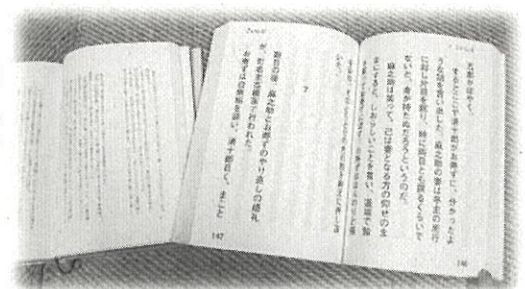


文字の拡大や音声読み上げ機能を使ってラクラク読書♪



「大活字本」を知っていますか？

大活字本は、視力が弱い方や高齢者など、普通の単行本の文字の大きさでは読みづらい方にも読みやすいように、文字の大きさを通常よりも大きくし、それに合わせて行間や本の判型なども大きくした本です。



通常サイズの本 大活字本

タイトル	著者
彼岸花 上・下	宇江佐 真理
ことり屋おけい探鳥双紙 上・下	梶 よう子
銀河鉄道の父 上・中・下	門井 慶喜
同期 上・下	今野 敏
共鳴 上・下	堂場 瞬一
地下街の雨 上・下	宮部 みゆき
きつねのはなし 上・下	森見 登美彦

今年度受入したおもな大活字本です。
人気作家の本も数多くラインナップされています。

約 3,000 冊所蔵しており、取り寄せれば
どの図書館でも借りられます。
ぜひご利用ください。



「朗読CD」もあります！

朗読CDとは、ナレーターや声優によって、物語や詩などの朗読が吹き込まれた録音資料です。
視力が弱い方や高齢の方も、ラジオや音楽を聴くように、「聞く読書」を楽しむことができます。



図書館臨時休館のお知らせ 令和7年2月25日(火)～3月6日(木)

蔵書情報や利用記録等を管理する電算システムの更新を行います。更新作業に伴い、上記の期間は市内全館を休館させていただきます。期間中に併せて蔵書点検も行います。

なお、電子図書館は3月1日(土)～3月7日(金)午前9:30の間、使用できません。

利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解をお願いします。

